

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・EU 等で下方修正されたものの、イラク、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。

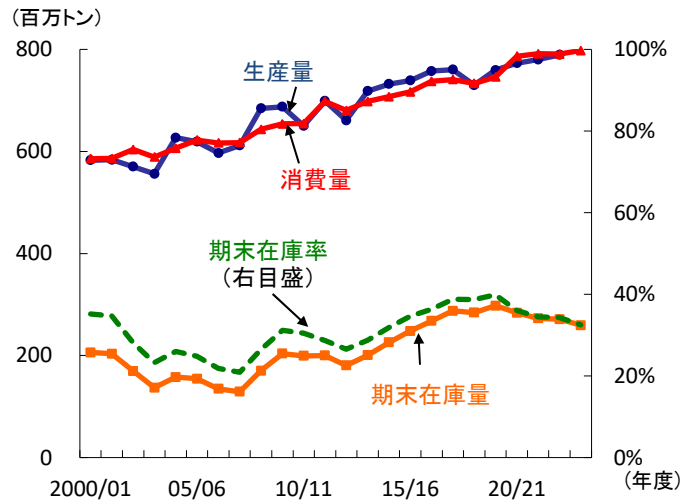
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナ等で下方修正されたものの、インド、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・英国等で下方修正されたものの、ウクライナ、豪州、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料:USDA「PS&D」(2024.2.8) をもとに農林水産省にて作成

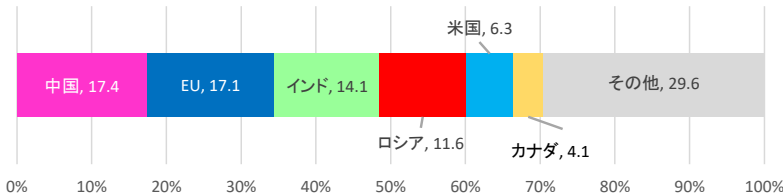
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

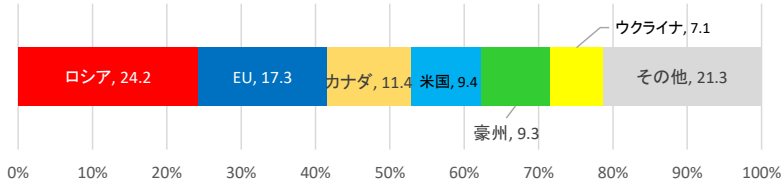
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	780.1	789.2	785.7	0.8	▲ 0.4
消 費 量	791.2	790.7	797.5	1.1	0.9
うち飼料用	160.2	153.7	160.5	▲ 0.6	4.4
輸 出 量	202.8	220.2	210.7	1.2	▲ 4.3
輸 入 量	199.9	211.5	209.9	0.7	▲ 0.8
期末在庫量	272.8	271.2	259.4	▲ 0.6	▲ 4.3
期末在庫率	34.5%	34.3%	32.5%	▲ 0.1	▲ 1.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 February 2024)

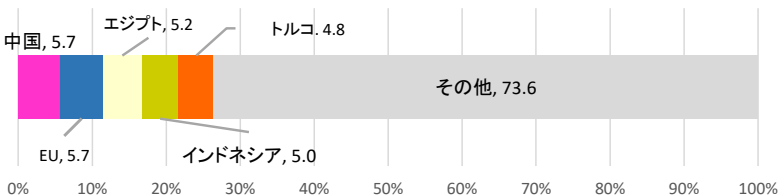
○ 2023/24年度の世界の小麦の生産量(785.7百万トン) (単位: %)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸出量(210.7百万トン) (単位: %)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸入量(209.9百万トン) (単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の冬小麦の生育状況が改善

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 49.3 百万トンと、前年度に比べ 9.8%増、過去 5 年平均(48.6 百万トン)に比べ 1.4%増となる見込み。

USDA「Crop Production」(2024.2.8)によれば、冬小麦、春小麦及びデュラム小麦の生産量は、いずれも前月予測からの変更はなく、それぞれ 34.0 百万トン(前年度比 13.1%増)、13.7 百万トン(同 4.6%増) 及び 1.6 百万トン(同 7.3%減)の見込み。

2024/25 年度の冬小麦の生育状況は、1 月初旬は穏やかな天候であったものの、同中旬に中央平原から中西部まで吹雪が発生。この吹雪で干ばつの影響を受けていた中央平原では土壤水分が改善した。このため、2024/25 年度の冬小麦の作柄評価を表す「やや良～良」の割合は、冬小麦の主産地であるカンザス州では、11 月 26 日の 32 %から 1 月 28 日には 54%に増加した。同じく、ネブラスカ州やオクラホマ州でも「やや良～良」の割合は、それぞれ 49%から 69%、53%から 63%に増加した。

同「Winter Wheat and Canola Seedings」(2024.1.12)によれば、米国の 2024/25 年度の冬小麦播種面積は、小麦の市場価格が高く播種面積が増加した 2023/24 年度(14.85 百万ヘクタール)に比べ、市場価格の低下を受け 13.93 百万ヘクタールと 6.2%減少したものの、2022/23 年度に比べ 3.4%増加した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 19.7 百万トンと、前年度に比べ 4.5%減少し、1972/73 年度以降で最低の見込み。また、2023/24 年度のうち 2023 年 6 月～12 月の輸出量は、ロシアやウクライナからの予想を上回る小麦供給量や、国際市場で価格競争力が乏しいことから 10.2 百万トンと、前年度同期(12.5 百万トン)を 18.4%下回っている。

米国産の 2 月 6 日時点のハード・レッド・ウインター(HRW)の輸出価格(FOB)は、前月の 285 ドル/トンからはば変わらず 286 ドル/トンとなった。主要輸出 6 か国(米国のほか、ロシア、EU、カナダ、豪州、アルゼンチン)の輸出価格との比較では、カナダ(306 ドル/トン)、豪州(291 ドル/トン)に続き高い水準であり、多くの市場で競争力に欠ける状況が継続している。また、ハード・レッド・スプリング(HRS)は東アジアからの需要が強く、前月から 2 ドル/トン上昇し 306 ドル/トンとなった。

2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、17.9 百万トン。期末在庫量は 2017/18 年度の 32.1 百万トンから低下傾向となったが、2023/24 年度は前年度を 15.5%上回る見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年6月～24年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	44.8	44.9	49.3	-	9.8
消 費 量	30.4	30.4	31.1	▲ 0.3	2.4
うち飼料用	2.4	2.1	3.3	-	56.5
輸 出 量	21.7	20.7	19.7	-	▲ 4.5
輸 入 量	2.6	3.3	4.0	-	19.0
期末在庫量	18.4	15.5	17.9	0.3	15.5
期末在庫率	35.3%	30.4%	35.2%	0.7	4.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.03	14.36	15.08	-	5.0
単収(t/ha)	2.98	3.13	3.27	-	4.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(8 February 2024)

図 米国産冬小麦、春小麦、デュラム小麦の生産量の推移



写真 米国オレゴン州の冬小麦の圃場(2024.1.29)



＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は 33.9 百万トンの見込み(AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2024.2.16)によれば、2023/24 年度の小麦全体の生産量は、前月予測からの変更はなく 32.0 百万トンと、前年度に比べ 6.9%減少するものの、過去 5 年平均に比べ 1.6%増加の見込み。

種類別の生産量は、普通小麦は収穫面積が増加したものの、干ばつによる単収の低下を受け 27.9 百万トンと前年度比で 2.2%減少となるも、5 年平均比では 6.5%増加。デュラム小麦は、平原西部の干ばつによる収穫面積の減少と単収の低下を受け 4.0 百万トンと前年度比 30.1%減、5 年平均比 22.7%減の見込み。

2024/25 年度の小麦全体の生産量は、収穫面積の増加から前月予測に比べ 0.6 百万トン上方修正され 33.9 百万トンの見込み。作付面積が豆類やオーツ麦等の粗粒穀物の増加を受け前年度に比べ 1.9%減少するものの、干ばつから天候が回復し単収が例年並みとなると 6.2%増加する見込み。

種類別の生産量は、普通小麦は収穫面積の増加から前月予測に比べ 0.6 百万トン上方修正され 27.9 百万トンの見込み。世界的に潤沢な供給と価格低下による収益の低下を受け作付面積が前年度に比べ減少するものの、単収の回復から 0.2%増加。また、デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 5.4 百万トンと、前年度に比べ作付面積の増加から 34.4%増加する見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 23.5 百万トンとなるものの、生産量の減少を受け前年度比 8.6%減少の見込み。種類別の輸出量は、普通小麦は好調な輸出ペースから前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 20.3 百万トンとなるものの、前年度に比べ 1.8%減少の見込み。デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 3.2 百万トンと、生産量減少による輸出余力低下とトルコとの競合の強まり等を受け前年度に比べ 36.7%の減少。

なお、カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2023 年 8 月から 12 月までの輸出量は、普通小麦が 9.1 百万トンと前年度同期比 12.9%増加した一方、デュラム小麦は 1.2 百万トンと前年度同期比 35.6%の減少。同期間の輸出先国は、前年度同期に比べ普通小麦は米国(251.9%増)、インドネシア(28.5%増)で増加も、中国(27.8%減)、バングラデシュ(14.9%減)で減少した。デュラム小麦はイタリア(68.2%減)で減少した。

2024/25 年度の輸出量は、前月からの予測の変更はなく 24.4 百万トンの見込み。種類別には、普通小麦は 20.0 百万トンと潤沢な世界供給から前年度に比べ 1.2%減少する見込み。デュラム小麦は 4.4 百万トンと、欧州や北アフリカへの輸出が回復するとみられることから前年度に比べ 35.9%増加する見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年8月～24年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	22.4	34.3	32.0 (32.0)	-	▲ 7.0
消 費 量	10.2	9.3	8.7 (8.6)	-	▲ 6.5
うち飼料用	5.2	4.2	3.5 (4.1)	-	▲ 15.9
輸 出 量	15.1	25.6	24.0 (23.5)	-	▲ 6.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	9.1
期末在庫量	3.7	3.7	3.5 (3.6)	0.0	▲ 4.1
期末在庫率	14.5%	10.5%	10.7% (11.1%)	0.0	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.20	10.08	10.68 (10.68)	-	6.0
単収(t/ha)	2.44	3.41	2.99 (2.99)	-	▲ 12.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(16 February 2024)

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

(普通小麦) (輸出量:百万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2023年8月～2023年12月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2021/22年度 (2021年8月～2022年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	125.6	13.8	中国	296.8	15.1	日本	159.2	13.8
インドネシア	99.4	10.9	インドネシア	213.8	10.9	インドネシア	128.1	11.1
日本	72.6	8.0	日本	167.3	8.5	コロンビア	102.4	8.9
コロンビア	58.8	6.5	ペルー	148.3	7.5	ペルー	79.2	6.9
バングラデシュ	57.7	6.3	バングラデシュ	144.4	7.3	中国	69.4	6.0
ペルー	46.1	5.1	コロンビア	109.9	5.6	エクアドル	65.8	5.7
その他	450.3	49.5	その他	886.1	45.1	その他	548.0	47.6
計	910.5	100.0	計	1,966.6	100.0	計	1,152.1	100.0

(デュラム小麦)

2023/24年度 (2023年8月～2023年12月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2021/22年度 (2021年8月～2022年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
モロッコ	27.8	22.5	イタリア	121.0	23.9	モロッコ	72.2	27.5
アルジェリア	24.7	20.0	アルジェリア	120.8	23.8	アルジェリア	44.5	16.9
イタリア	19.8	16.0	モロッコ	85.7	16.9	米国	40.9	15.6
米国	17.3	14.0	米国	50.4	9.9	イタリア	33.5	12.8
日本	10.0	8.1	チュニジア	32.5	6.4	日本	20.2	7.7
ベネゼーラ	7.6	6.1	日本	18.1	3.6	ナイジェリア	12.3	4.7
その他	16.6	13.4	その他	78.8	15.5	その他	39.0	14.9
計	123.8	100.0	計	507.3	100.0	計	262.6	100.0

資料：「Canadian Grain Commission」のデータを基に農林水産省で作成

＜ 豪州 ＞2023/24 年度の輸出量は、0.5 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、25.5 百万トンの見込み。史上最高であった前年度に比べ、単収の低下と収穫面積の減少から、2023/24 年度の実生産量は 37.1%減少するものの、10 年平均(26.5 百万トン)に比べ 3.7%の減少に留まり、ほぼ平年並みの見込み。なお、エルニーニョ現象の影響は、播種以降に乾燥天候が生じたものの、播種時に十分な土壌水分が保たれていたことや、前年 10 月以降の成熟に適した降雨を受け当初予測より軽減された。

GIWA(西豪州穀物産業協会)(2024.2.9)によれば、ウェスタンオーストラリア(WA)州の実生産量は、前回予測(2023 年 12 月)から 0.3 百万トン上方修正され、7.7 百万トンの見込み。生育シーズン当初から土壌水分が不足し、その後も乾燥天候に見舞われ、史上最高の前年度の 13.9 百万トンを下回る見込み。全体的に品質は良好で、生産量に占める高タンパク質含有小麦の割合は前年度の 3 %を上回る 47%であった。

2023/24 年度の収穫状況は、現地情報会社によれば、ヴィクトリア(VIC)州で残っていた収穫も 1 月に終了し、小麦の収穫は完了した。品質は、WA 州で例年になく高タンパク質小麦が生産されたため、オーストラリアン・ハード(AH)等級の小麦が前年同期比で 10%増加し、全体の 23%を占めている。また、収穫期の降雨によりニューサウスウェールズ(NSW)州南部等では穂発芽が発生し、一部の小麦は飼料用グレードに格下げされたものの、全国レベルでその割合は 6 %に留まり 5 年平均を下回った。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、飼料用消費が下方修正され輸出余力が高まることから、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、19.5 百万トンの見込み。過去最高の前年度に比べ、乾燥天候による生産量の減少から 38.7%減少するものの、輸出実績が比較的好調であることや小麦の品質が予想より良好であることから、10 年平均(18.9 百万トン)に比べ 3.1%増加する見込み。

現地情報会社によれば、2023/24 年度(2023 年 10 月～2024 年 9 月)の 12 月輸出量は 140.5 万トンと前年度に比べ 47.4%減少。輸出先国は、中国(17.9%)、フィリピン(14.7%)、インドネシア(11.7%) の順。

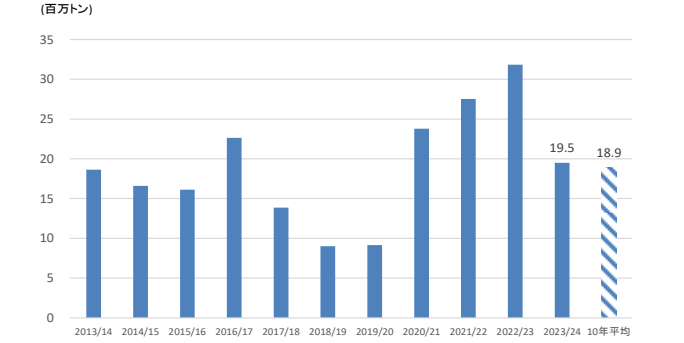
また、同年度 10 月～12 月の輸出量は 394.7 百万トンで前年度(645.4 万トン)に比べ 38.8%の減少。輸出先国は中国(17.7%)、インドネシア(13.4%)、フィリピン(11.9%)の順で、中国向けシェアは 2022/23 年度(23.8%)と同じく第 1 位である。アジア市場では、豪州産小麦は安価なロシア産と競合しているものの、紅海状況を受け迂回経路をとっているロシア産に比べて割安となるとみられ、今後豪州産小麦の需要が増加する可能性がある。

小麦一豪州(冬小麦を主に栽培)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年10年～24年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	36.2	40.6	25.5 (25.5)	-	▲ 37.1
消 費 量	8.5	8.0	7.0 (7.7)	▲ 0.5	▲ 12.5
うち飼料用	5.0	4.5	3.5 (4.0)	▲ 0.5	▲ 22.2
輸 出 量	27.5	31.8	19.5 (18.6)	0.5	▲ 38.7
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.5	4.4	3.6 (3.2)	-	▲ 18.3
期末在庫率	9.6%	11.0%	13.5% (12.2%)	-	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	12.73	13.05	12.50 (12.50)	-	▲ 4.2
単収(t/ha)	2.85	3.11	2.04 (2.04)	-	▲ 34.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」(11 January 2024)

図 豪州産小麦の輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.2.8)をもとに農林水産省で作成

表 豪州の小麦輸出量と輸出先国

2023年12月			2023年10月～2023年12月			2022年10月～2023年9月		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	25.2	17.9	中国	70.8	17.7	中国	756.7	23.8
フィリピン	20.7	14.7	インドネシア	53.5	13.4	インドネシア	504.2	15.8
インドネシア	16.5	11.7	フィリピン	47.6	11.9	フィリピン	308.2	9.7
イエメン	13.8	9.8	ベトナム	40.4	10.1	ベトナム	285.0	9.0
ベトナム	13.5	9.6	イエメン	30.9	7.7	韓国	270.3	8.5
日本	8.4	6.0	日本	28.6	7.2	タイ	200.8	6.3
その他	42.4	30.2	その他	122.9	31.1	その他	859.1	27.0
計	140.5	100.0	計	394.7	100.0	計	3,184.3	100.0

資料：「Australian Crop Forecasters S&D Export Report」(2024.2)を
もとに農林水産省で作成

< EU27 > 2023/24 年度の生産量は5年平均を上回る 134.0 百万トン(欧州委員会)

【生育・生産状況】欧州委員会(2024.1.29)によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 134.0 百万トンと、前年度比で 0.3%減少も、過去 5 年平均比で 1.0%増加する見込み。

小麦全体のうち普通小麦は、前月予測に比べ 0.2 百万トン上方修正され 126.9 百万トンと、前年度比で 0.1%増加し、5 年平均比で 1.7%増加。また、デュラム小麦は、0.1 百万トン上方修正され 7.1 百万トンと、前年度比で 6.3%減少し、5 年平均比でも 10.2%減少見込み。デュラム小麦の実生産量は、2016/17 年度に 9.7 百万トンに達した後、2021/22 年度に 8.2 百万トンと一時回復したものの減少傾向にある。

欧州委員会によれば、2024/25 年度の冬小麦の 1 月の生育状況は、初旬に欧州北部が寒波に覆われ、バルト三国では、積雪が少ない状態で気温が急激に低下したため、冬穀物が霜害を受けた可能性が高い。他方、スペインの地中海沿岸及びイタリアでは、顕著な降雨不足となり、デュラム小麦が影響を受けた。

USDA によれば、1 月末から 2 月上旬にかけて、フランス及びドイツでは温暖な気温等から、休眠期に入っていた冬穀物の一部は平年よりも 1 か月以上早く再生長を再開した。

フランスアグリメール(2024.2.12)によれば、2024/25 年度のフランスの播種は、普通小麦は終了、デュラム小麦は播種進捗率が 89%(前年度 97%)となった。生育状況を示す「良～優良」の割合は、普通小麦は 68%、デュラム小麦は 75%となり、それぞれ前年度の 93%、93%を下回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は飼料用小麦の輸入増加を受け、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 12.0 百万トンと、前年度を 0.8%下回るも過去 5 年平均を 79.1%上回る。

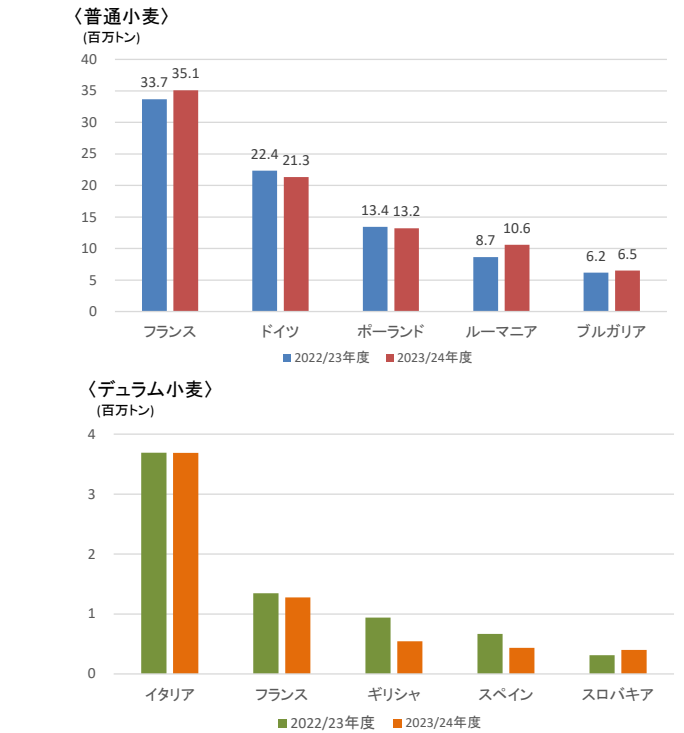
輸出量は前月予測からの変更はなく 36.5 百万トン(前年度比 4.0%増、5 年平均比 13.4%増)の見込み。輸出価格(1 月 10 日時点)は、黒海産との激しい競合を受け前月から 12 ドル/トン低下し 233 ドル/トンと、主要 6 か国(P2 米国参照)のうちロシア産(225 ドル/トン)に次ぎ安価となった。

欧州委員会によれば、11 月の輸出量は普通小麦が 268.1 万トン(5 年平均比 13.0%増)、デュラム小麦は 8.6 万トン(同 2.4%増)。輸出先国は、普通小麦がエジプト(20.5%)、ナイジェリア(11.1%)、モロッコ(10.9%)の順で、アフリカ諸国向けが多いが、10 月からはエジプト向けが特に増加した。デュラム小麦はスリランカ(38.2%)、サウジアラビア(14.2%)、チュニジア(12.7%)の順。なお、EU 産デュラム小麦の輸出量は 2022/23 年度にカナダに次ぎ世界 2 位となったが、2023 年 7 月～11 月の輸出量は 22.4 万トンと、2022/23 年度同時期に比べ生産量の減少から 46.3%の減少となっている。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）						
（単位：百万トン）						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	138.2	134.2	134.0 (133.2)	▲ 0.3	▲ 0.1	
消 費 量	108.3	108.0	110.5 (109.7)	0.5	2.3	
うち飼料用	45.0	44.0	46.0 (45.2)	0.5	4.5	
輸 出 量	31.9	35.1	36.5 (34.3)	-	4.0	
輸 入 量	4.6	12.1	12.0 (8.9)	1.0	▲ 0.8	
期末在庫量	13.3	16.5	15.5 (16.6)	0.2	▲ 6.1	
期末在庫率	9.5%	11.5%	10.6% (11.5%)	0.1	▲ 1.0	
（参考）						
収穫面積(百万ha)	24.29	24.38	24.38 (23.88)	0.16	-	
単収(t/ha)	5.69	5.50	5.53 (5.58)	▲ 0.02	0.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」(11 January 2024)

図 EU の上位 5 か国の生産量の推移



＜ 中国 ＞ 2023 年の輸入量は前年に比べ 13.7%増加

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、136.6 百万トンの見込み。史上最高の前年度に比べ、収穫面積は増加したものの単収の低下から、生産量は 0.8%減少したものの、過去 5 年平均の 134.8 百万トンを上回る。2023/24 年度は、収穫前に豪雨に見舞われたため、生産量が減少するとともに飼料用グレードの割合が増加した。

中国 農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 12 月号」(2024.1.15)によれば、2024/25 年度の冬小麦の生育状況は、12 月に主要産地の冬小麦のほとんどで分けつ期・越冬期を迎えた。12 月初旬、日照と適切な土壌水分に恵まれ、冬小麦の生育は良好であった。さらに、12 月中・下旬に広範囲で降雪があり、主産地のほとんどの冬小麦の圃場は、越冬に適した土壌水分となった。また、低温は病害虫を減少させる効果もあったものの、華北平原及び黄河、淮河流域の一部では、軽度から中度の凍害を受けた。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量のうち飼料用消費量は、2023 年 5 月の降雨被害による品質低下に伴う飼料用グレードの国産小麦増加を受け、飼料メーカーが、低品質小麦と発芽小麦の配合率を増加させるとみられることから、37.0 百万トンと前年度に比べ 12.1%増加する見込み。

2023/24 年度の輸入量は、EU からの輸入量が減少したことから、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、12.0 百万トンの見込み。前年度に比べ 5.3%減少するものの、2020/21 年度からの 4 年間平均で 11.4 百万トンを入力しており、2023/24 年度も前年度に続き世界第 1 位の小麦輸入国となっている。なお、中国は 1991/ 92 年度に史上最高の 15.9 百万トンを入力している。

同「中国農産品供需形勢分析月報」によれば、2023 年 1 月から 11 月までの小麦及び小麦製品の輸入量は、国際小麦価格が国内価格に比べ相対的に低いため、大幅に増加した。

中国税関統計によれば、2023 年 1 月から 12 月までの輸入量合計は 1,210.4 万トンで、前年に比べ 13.7%増加。同期間の輸入先国のシェアは、豪州 59.5%(前年同期 60.2%)、カナダ 19.6%(同 16.8%)、フランス 6.8%(同 16.0%)、米国 6.7%(同 5.9%)の順で、前年に比べカナダ及び米国のシェアが増加した一方、豪州及びフランスのシェアが低下。なお、米国産の輸入量は、2023 年 10 月に米国の農産物販売業者と中国の商品輸入業者の間で穀物購入協定が締結され増加するとみられたものの、11 月及び 12 月の輸入量は減少した。

USDA によれば、中国は輸入先の多角化を図っており、中国とアルゼンチンは中国向けアルゼンチン産の検疫手続に合意した。これにより、アルゼンチン産小麦の輸入が可能になった。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	137.0	137.7	136.6 (136.6)	-	▲ 0.8	
消 費 量	148.0	148.0	153.5 (149.5)	-	3.7	
うち飼料用	35.0	33.0	37.0 (32.0)	-	12.1	
輸 出 量	0.9	1.0	0.9 (1.2)	-	▲ 5.3	
輸 入 量	9.6	13.3	12.0 (12.7)	▲ 0.5	▲ 9.6	
期末在庫量	136.8	138.8	133.0 (139.0)	▲ 0.5	▲ 4.2	
期末在庫率	91.9%	93.2%	86.1% (92.3%)	▲ 0.3	▲ 7.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.57	23.52	23.63 (23.63)	-	0.5	
単収(t/ha)	5.81	5.86	5.78 (5.78)	-	▲ 1.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」(11 January 2024)

図 中国の小麦輸入量の推移

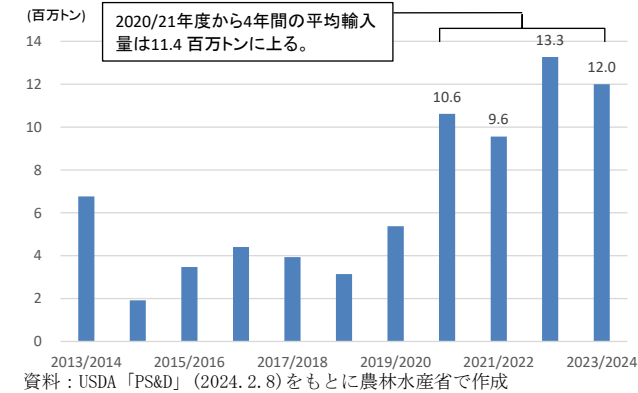


表 中国の小麦輸入量及び輸入先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023年12月			2023年1月～2023年12月		
国 名	輸入量	シェア	国 名	輸入量	シェア
カナダ	34.9	57.6	豪州	720.3	59.5
豪州	15.2	25.1	カナダ	237.5	19.6
ロシア	3.9	6.4	フランス	82.4	6.8
米国	3.1	5.1	米国	81.4	6.7
カザフスタン	2.9	4.8	カザフスタン	54.1	4.5
その他	0.6	1.0	その他	34.7	2.9
計	60.6	100.0	計	1,210.4	100.0

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 2023/24 年度の輸出量は史上最高 アルジェリアで輸出シェア拡大

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測からの変更はなく、91.0 百万トンの見込み。史上最高であった前年度(92.0 百万トン)に比べ 1.1%減少するものの、過去 5 年平均(79.6 百万トン)を 14.4%上回り史上 2 位となる見込み。

種類別の生産量は、冬小麦及び春小麦ともに前月予測からの変更はなく、それぞれ 64.0 百万トン、27.0 百万トンの見込み。冬小麦は単収が増加したものの、播種期の降雨を受け収穫面積が減少したことから、前年度に比べ 5.9%減少。春小麦は乾燥天候により収穫面積が減少したものの、当初の予想ほど乾燥天候の影響を受けずに単収が上昇したことから、前年度に比べ 12.5%増加する見込み。

2024/25 年度の冬小麦の播種面積は前年度同期(17.72 百万ヘクタール)を上回る 18.60 百万ヘクタール。ロシア気象センターによれば、2024 /25 年度の冬穀物の越冬状況は、ロシアヨーロッパ部北部及び南部の気象条件が「概ね並み」から「並み」となり、一時平年より寒冷となったものの、大部分の産地がスノーカバー(作物が積雪により外気の寒さから守られる)に覆われていたため被害はなかった。また、アジア部でも冬小麦の越冬状況は「並み」であった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、ロシア産の輸出価格は、天候の回復によるロシアの港での積荷作業の継続から前月より 20 ドル/トン下落し 225 ドル/トンと、主要輸出 6 か国(P2 米国を参照)で最安値。現地情報会社によれば、小麦がハイペースで輸出されてきたものの、過剰な在庫水準が解消されないことがロシア産価格の低さの原因とみられる(連邦統計庁によれば、1 月の小麦在庫量は過去最高水準)。

2023/24 年度の輸出量は前月予測からの変更はなく 51.0 百万トン。好調な輸出ペースを受けこれまで史上最高であった前年度(47.5 百万トン)を更に 7.4%上回る見込み。2023/24 年度のうち 2023 年 7 月～2024 年 1 月のロシアの輸出量は 3,104.5 万トンと、過去最高の輸出量であった 2022/23 年度の同期間(2,384.3 万トン)を 11.0%上回った。また、1 月の輸出量も 401.4 万トンと過去 3 年平均(316.2 万トン)を 26.9%上回った。なお、1 月の輸出先国は、エジプト(17.3%)、パキスタン(11.6%)、トルコ(10.1%)の順。

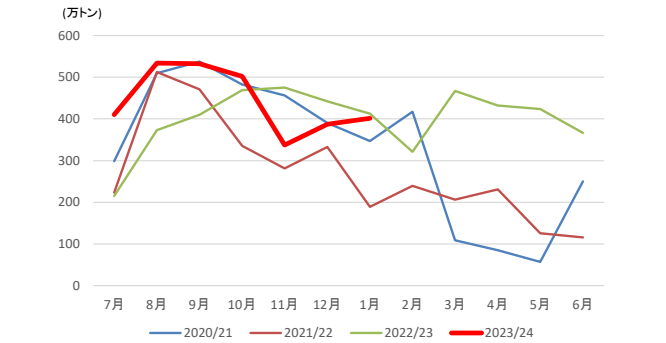
なお、現地情報会社によれば、ロシアは新規市場開拓として輸入量世界第 6 位のアルジェリアへの輸出を伸ばしている。アルジェリアの輸入量は年間約 8.0 百万トンで多くは EU 産。2021/22 年度にアルジェリアの検疫規制緩和により 5 年ぶりにロシア産 0.5 百万トンが輸入され、2022/23 年度には 2.1 百万トンに拡大。2023/24 年度は 7 か月で 1.6 百万トンと EU 産の 1.2 百万トンを超え市場シェアを奪っている。

小麦ーロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)
(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	75.2	92.0	91.0 (90.0)	-	▲ 1.1	
消 費 量	41.8	42.3	43.0 (43.6)	-	1.8	
うち飼料用	18.5	19.0	20.0 (19.0)	-	5.3	
輸 出 量	33.0	47.5	51.0 (50.1)	-	7.4	
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-	
期末在庫量	12.1	14.6	11.9 (11.4)	-	▲ 18.4	
期末在庫率	16.2%	16.3%	12.7% (12.2%)	-	▲ 3.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.63	29.00	28.80 (29.00)	-	▲ 0.7	
単収(t/ha)	2.72	3.17	3.16 (3.10)	-	▲ 0.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」(11 January 2024)

図：ロシアの小麦の月別輸出量の推移



表：ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン, シェア: %)											
2023/24年度 (2024年1月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年1月)			2022/23年度 (2022年7月～2023年6月)			2021/22年度 (2021年7月～2022年6月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	69.5	17.3	トルコ	440.4	14.2	エジプト	836.8	17.4	トルコ	669.7	20.5
パキスタン	46.4	11.6	エジプト	387.9	12.5	トルコ	682.1	14.2	イラン	626.6	19.2
トルコ	40.8	10.2	バングラデシュ	249.1	8.0	バングラデシュ	199.2	4.1	エジプト	500.5	15.4
バングラデシュ	38.9	9.7	パキスタン	170.2	5.5	パキスタン	155.2	3.2	サウジアラビア	97.3	3.0
イエメン	26.5	6.6	アルジェリア	163.2	5.3	イラン	149.6	3.1	ナイジェリア	73.5	2.3
インドネシア	18.7	4.7	インドネシア	117.9	3.8	アゼルバイジャン	136.9	2.8	スーダン	71.2	2.2
n/a	17.6	4.4	イエメン	108.0	3.5	カザフスタン	125.5	2.6	アゼルバイジャン	69.7	2.1
その他	143.0	35.6	その他	1,467.8	47.3	その他	2,521.5	52.5	その他	2,521.5	77.3
計	401.4	100.0	計	3,104.5	100.0	計	4,806.8	100.0	計	3,260.2	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2023/24 年度の輸出量は前月予測から 1.0 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく23.4百万トンの見込み。前年度に比べ、収穫面積は減少も、良好な天候による単収の上昇を受け、前年度(21.5百万トン)を8.8%上回るものの、5年平均(26.8百万トン)に比べ12.8%下回る。

2024/25年度の冬小麦の播種面積は4.16百万ヘクタールと、前年度同期(3.64百万ヘクタール)を14.3%上回った(2023年11月27日現在)。なお、ロシアのウクライナ侵攻前の2021年の播種面積(6.25百万ヘクタール)に比べると33.4%の減少となる。生育状況は、12月は降雨に恵まれたが、1月は気温の変動が大きく一部地域の広範囲な圃場で土壌表面が氷に覆われたことから、作物への悪影響が懸念されている。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、主にEU向けの輸出が堅調なことから、前月予測から1.0百万トン上方修正され15.0百万トンとなるものの、前年度に比べ12.4%減少、5年平均(18.0百万トン)に比べ16.5%減の見込み。黒海のおデーサ港等の主要輸出港からのアフリカ及びアジア向け輸出が黒海穀物イニシアティブの履行停止の影響を受け輸出量は前年度に比べ減少した。なお、その後の輸出は一時停滞したものの、臨時回廊の設置で10月以降輸出量は増加している。

ウクライナ政府等によれば、2023/24年度のうち2023年7月から2024年1月までの輸出量は921.8万トン。この間、黒海穀物イニシアティブの履行されていた7月の輸出量は82.4万トンに減少したものの、臨時回廊の設置を受け、輸出量は増加傾向となり1月の輸出量は150.4万トンとなった。また、8月から1月までの同イニシアティブの履行停止後の輸出量は100万トンを超え、同期間の平均輸出量は139.9万トンとなった(黒海穀物イニシアティブ履行期間中の平均輸出量:151.5万トン)。前年7月から1月までの輸出先国はスペイン(35.0%)、ルーマニア(10.9%)、エジプト(7.8%)の順。このうち、スペイン向けシェアが高い要因は、同国の乾燥天候による生産量の減少と飼料用小麦の需要増加や、ウクライナ産小麦の飼料用グレードの増加、ウクライナからアジア等よりも近く輸送コストが低いこと等による。

また、輸送手段別の小麦輸出量は、臨時回廊が設定された8月は船舶79.4%、鉄道13.0%、自動車4.1%であったが、1月は、船舶91.5%、鉄道6.7%、自動車1.3%となり、船舶の利用率が増加した一方、鉄道・自動車の利用率は減少しており、ウクライナが設定した臨時回廊が順調に機能しているとみられる。

この背景には、船舶輸送が陸上輸送よりコストが低いこと、臨時回廊向け船舶保険メカニズムの始動による海上保険料コストの低下がある。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）
(単位:百万トン)

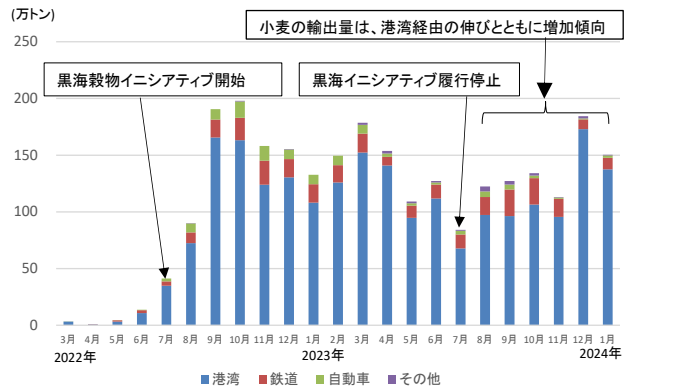
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	33.0	21.5	23.4 (28.7)	-	8.8	
消 費 量	9.0	7.7	8.0 (13.9)	▲ 0.6	3.9	
うち飼料用	3.0	2.7	3.0 (3.0)	▲ 1.0	11.1	
輸 出 量	18.8	17.1	15.0 (14.0)	1.0	▲ 12.4	
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3	
期末在庫量	6.8	3.5	4.0 (3.8)	▲ 0.4	13.7	
期末在庫率	24.3%	14.1%	17.3% (13.5%)	▲ 2.1	3.2	

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.41	5.60	5.05 (6.32)	-	▲ 9.8	
単収(t/ha)	4.45	3.84	4.63 (4.54)	-	20.6	

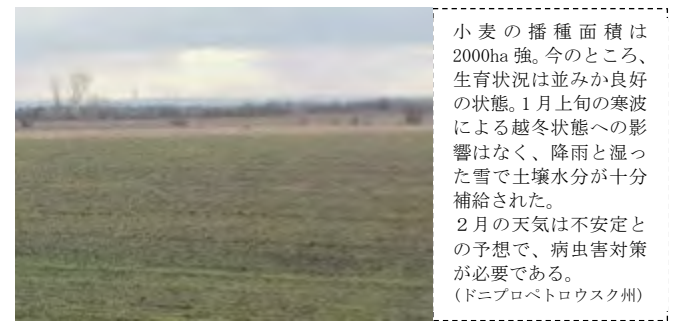
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」(11 January 2024)

図 ウクライナ産小麦の輸送手段別輸出量の推移



資料:ウクライナ農業政策食料省及びインフラ省、現地情報会社のデータ
をもとに、農林水産省で作成

写真 2024/25 年度の冬小麦の圃場(2024. 2. 5)



2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 

・インド、トルコ等で上方修正されたものの、ブラジル、メキシコ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

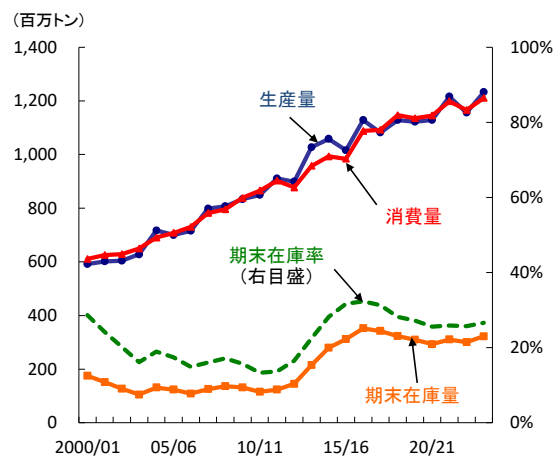
消費量 前年度比  前月比 

・インド、トルコ等で上方修正されたものの、パキスタン、ウクライナ、バンラデシュ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・ウクライナ、パキスタン等で上方修正されたものの、ブラジル、インド、セルビアで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2024.2.8)をもとに農林水産省にて作成

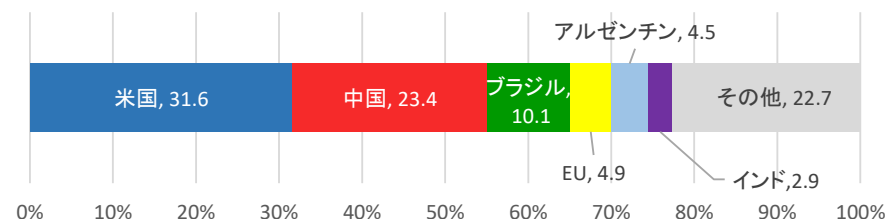
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

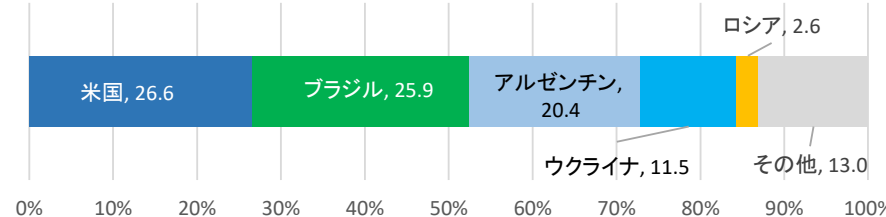
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,215.9	1,155.9	1,232.6	▲ 3.2	6.6
消 費 量	1,198.4	1,166.2	1,210.8	▲ 0.3	3.8
うち飼料用	743.2	728.5	761.8	▲ 2.0	4.6
輸 出 量	206.6	181.0	200.8	▲ 0.1	11.0
輸 入 量	184.5	172.6	189.8	▲ 0.9	10.0
期末在庫量	310.5	300.3	322.1	▲ 3.2	7.3
期末在庫率	25.9%	25.7%	26.6%	▲ 0.3	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 February 2024)

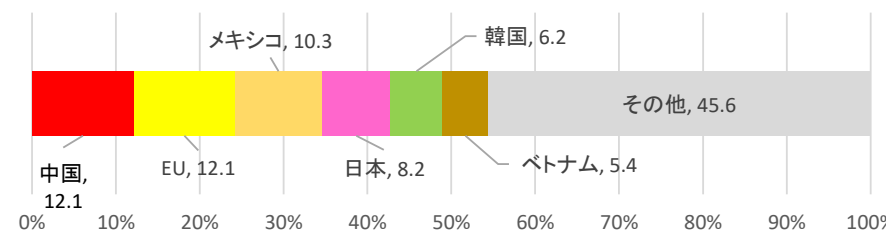
○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,232.6 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸出量(200.8 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸入量(189.8 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積の増加により、生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加（対前年度比 9.9%増）や単収の増加（同 2.2%増で史上最高）を受け、前年度より 12.4%増の 389.7 百万トンと史上最高の見通し。収穫面積の増加については、肥料価格の高騰が前年度から落ち着いたことを受けて、とうもろこしを選択した農家が増加したことも要因とみられる。米国穀物協会によると、品質は良好としている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、直近の食品加工用等消費の減少を受けて前月予測から 0.3 百万トン下方修正されたものの、飼料用、エタノール用等の需要の増加により、前年度に比べ 3.4%増の 316.4 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、国際的なとうもろこし価格の低下に伴う需要増加を受けた輸出の回復期待から、前年度より 26.4%増の 53.3 百万トンの見込み。他方で、2023/24 年度に輸入が増加すると見込まれる中国への輸出をめぐる、前年度が史上最高の生産見通しとなったブラジル産等との輸出競争が激化する見通し。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2024.2.8) によれば、本年 2 月の米国産の輸出価格は、国内在庫の増加と、南米産の供給増の影響を受けた米国産需要の低下を受け、2 月 6 日現在、前月から 14 ドル/トン低下し 198 ドル/トン。なお、2023 年 9 月～2024 年 1 月の輸出量は 1,614 万トンと、前年同時期の 1,206 万トンより 33.9%増加。輸出先国の内訳は、メキシコ (772.0 万トン)、日本 (243.7 万トン)、コロンビア (230.3 万トン) の順となっている。飼料需要が増加した一方、干ばつにより減産したメキシコ向けの輸出量が増加しているが、この背景としては、航行制限のあるパナマ運河を経由せず米国から直接輸出できることもあるとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の実在庫量は、2023/24 年の消費量が下方修正されたため前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、増産となったこともあり前年度より 59.7%増の 55.2 百万トンの見込み。実在庫率は前年度より 5.0 ポイント上昇し 14.9%と、過去 3 年平均 (9.2%) を上回っている。

とうもろこしー米国

(単位：百万トン)

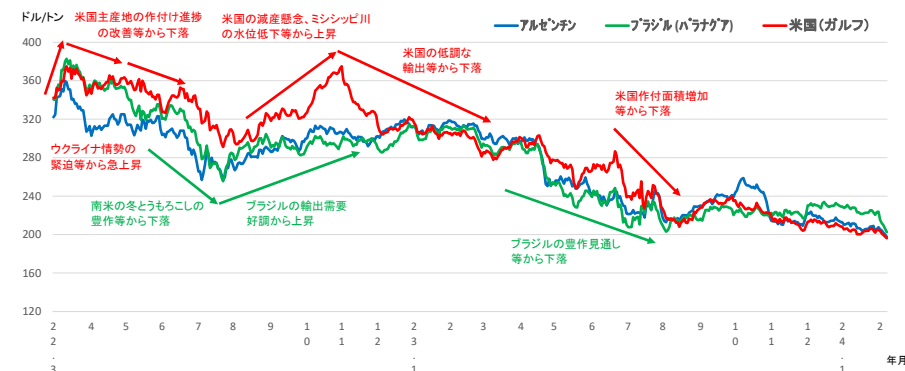
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	381.5	346.7	389.7	-	12.4
消 費 量	315.7	306.0	316.4	▲ 0.3	3.4
うち飼料用	144.0	139.4	144.2	-	3.4
エタノール用等	135.1	131.5	136.5	-	3.8
輸 出 量	62.8	42.2	53.3	-	26.4
輸 入 量	0.6	1.0	0.6	-	▲ 34.7
期末在庫量	35.0	34.6	55.2	0.3	59.7
期末在庫率	9.2%	9.9%	14.9%	0.1	5.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.39	31.85	35.01	-	9.9
単収(t/ha)	11.09	10.89	11.13	-	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量は大豆等への転換や高温乾燥により減少

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、冬とうもろこしの収穫面積の引下げを受けて前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、前年度より 9.5%減の 124.0 百万トンの見通し。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.2.8）によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 13.8%減の 113.7 百万トンの見込み（P.23 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照）。夏とうもろこしは、エルニーニョ現象による南部での降雨過多の影響等により、生産量が引き下げられた。冬とうもろこしも、とうもろこし価格の低下による大豆等への作付けシフト等を受けた収穫面積の引下げや、中西部での高温乾燥の影響を受け、前月から下方修正された。

USDA によれば、夏とうもろこしが主に栽培されている南部では、2 月上旬、季節外れの高温乾燥が広がった。一方、冬とうもろこしが主に栽培される中西部のマット・グロッソ州では、2 月上旬、高温乾燥を和らげる降雨があった。

南部のリオ・グランデ・ド・スール州における夏とうもろこしの作付けは 2 月 8 日時点でほぼ完了した。一方、中西部のマット・グロッソ州において、大豆の収穫が順調に進展し、その後作付けされる冬とうもろこしの作付け進捗率は 2 月 9 日時点で 42%と、前年のペースを上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用及び加工用ともに需要増加等から、前年度より 2.0%増の 77.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、冬とうもろこしの供給減の見込みと輸出ペースが当初予想より低調なことから、前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、史上最高となった前年度より 7.1%減の 52.0 百万トンとなり、米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国に後退する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1 月の輸出量は 4.9 百万トンで、前年度比 20%減。内訳は、中国（1.2 百万トン）、エジプト（0.5 百万トン）、イラン（0.5 百万トン）の順。2022 年 11 月末以降に開始された中国向けとうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡した 2023 年 7 月以降本格化しており、一部の港で滞船が見られたものの概ね順調に輸出されている。

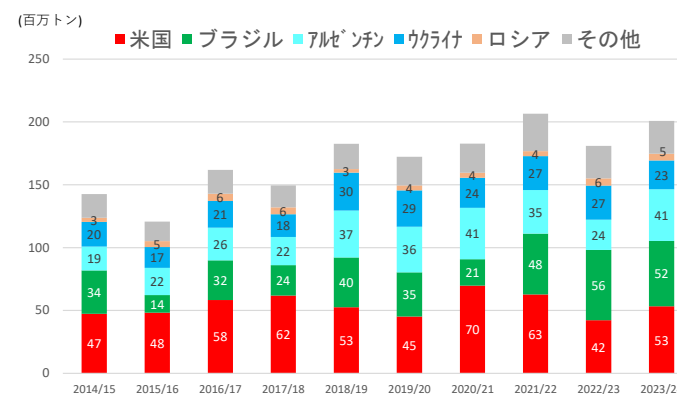
とうもろこしーブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.0	137.0	124.0 (119.7)	▲ 3.0	▲ 9.5
消費量	70.5	76.0	77.5 (79.8)	-	2.0
うち飼料用	59.5	63.0	63.5 (54.8)	-	0.8
輸 出 量	48.3	56.0	52.0 (47.0)	▲ 2.0	▲ 7.1
輸 入 量	2.6	1.3	1.2 (1.5)	-	▲ 7.7
期末在庫量	4.0	10.3	6.0 (4.6)	▲ 1.0	▲ 41.9
期末在庫率	3.3%	7.8%	4.6% (3.6%)	▲ 0.7	▲ 3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	21.80	22.40	21.90 (21.16)	▲ 0.50	▲ 2.2
単収(t/ha)	5.32	6.12	5.66 (5.66)	▲ 0.01	▲ 7.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」(11 January 2024)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
（ブラジルは減産により世界第 2 位の輸出国に後退）



資料：USDA 「PS&D」 (2024.2.8) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2023/24 年度の生産量は、前年度から回復する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により生産量が激減した前年度に比べ降雨に恵まれ単収が増加することを受けて、大きく回復する見通しから、57.1%増の 55.0 百万トンで史上最高となる見込み。

一方、アルゼンチン政府によれば、2 月 14 日時点でとうもろこしの作付けは完了。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.2.15）によれば、作付面積は 7.2 百万ヘクタールと、2022/23 年度（7.1 百万ヘクタール）を 1.4%上回っている。1 月下旬から 2 月当初まで高温乾燥が続いたものの、2 月上旬、主産地の大部分で降雨があり、土壌水分量は増加している。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い需給が緩和し、飼料用需要が回復することから、前年度より 20.5%増の 14.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により減産した前年度から生産量が大きく回復し、供給余力が出てくる見通しから、前年度より 70.8%増の 41.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 1～12 月の輸出量は 24.0 百万トンで、2022/23 年度産の減産を受け、前年度同期比（35.7 百万トン）で 33%減となった。輸出先の内訳は、ベトナム（321.9 万トン）、ペルー（299.2 万トン）、アルジェリア（229.4 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。とうもろこしと小麦の輸出に関し、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、輸出上限数量を設定しており、2022/23 年度のとうもろこし輸出上限数量は 20 百万トン。

2023 年 12 月 10 日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同 12 日、カブート経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソとした。なお、「OIL WORLD Weekly」（2024.2.2）によれば、政府は、とうもろこしの輸出税を 12%から 15%に引き上げることを検討していたものの、農業団体等の強い抵抗を受けて断念し、当面の間 12%のまま維持される見通し。ペソの更なる切下げも見送られている。

とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.5	35.0	55.0 (61.0)	-	57.1
消 費 量	14.2	11.7	14.1 (20.6)	-	20.5
うち飼料用	10.1	7.5	9.8 (15.5)	-	30.7
輸 出 量	34.7	24.0	41.0 (40.9)	-	70.8
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	1.8	1.1	1.0 (3.8)	-	▲ 7.2
期末在庫率	3.7%	3.1%	1.9% (6.2%)	-	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.10	6.70	6.90 (8.20)	-	3.0
単収(t/ha)	6.97	5.22	7.97 (7.44)	-	52.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」(11 January 2024)

写真：北部サンタフェ州の早植えとうもろこしの圃場風景 (2024 年 1 月 29 日撮影)



本圃場のとうもろこしの生育ステージは黄熟期から成熟期にある。
収穫作業は、3月上旬を予定している。
予想単収は 10 トン/ヘクタールの見込み。

< 中国 > 単収及び収穫面積の増加を受け、生産量は史上最高

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、中国国家統計局による収穫面積及び単収の増加見込みを受けて、前年度より4.2%増の288.8百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家統計局「2023年糧食生産量データ」(2023.12.11)によれば、2023/24年度の実産量は前年より4.2%増の2億8,884万トン。播種面積が前年より2.7%増加したことに加え、単収が前年より1.5%増加したことが増産の要因。なお、東北地区の一部で降雨過多の影響があったものの、他の地域では天候に恵まれた。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこし国際価格の低下等から、前年度より2.3%増の306.0百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家統計局(2024.1.17)によれば、2023年の食肉生産量は9,641万トンと、前年同時期比で4.5%増。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の飼料用需要の増加を背景として、国内価格が国際価格を上回っているほか、特に2022年末から開始されたブラジルからの輸入が増加すると予想されていることもあり、前年度より22.9%増の23.0百万トンの見込み。

農業農村部によれば、2023年1～12月の輸入量は、前年同期より30.3%増の2,687.6万トン。内訳は、ブラジル(1,255.9万トン)、米国(714.1万トン)、ウクライナ(550.4万トン)の順。2023年12月のブラジル産輸入量は401.1万トンと前月比で34.9%増。2022年11月以降開始されたブラジル産とうもろこしの輸入が、2022/23年度の実ブラジル産の豊作による安価な輸出価格を受けて大幅に増加し、第1位の輸入先国となった。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2023年12月号」によると、12月の国内価格は、新穀の豊作による供給増を受けて、2,480円/トンと前月(2,720円/トン)から下落した。

USDAによれば、2023/24年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、国内産の増産と輸入の増加により前年度より2.8%増の211.9百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	272.6	277.2	288.8 (288.8)	-	4.2
消費量	291.0	299.0	306.0 (310.9)	-	2.3
うち飼料用	209.0	218.0	225.0 (210.0)	-	3.2
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	21.9	18.7	23.0 (20.0)	-	22.9
期末在庫量	209.1	206.0	211.9 (173.9)	-	2.8
期末在庫率	71.9%	68.9%	69.2% (55.9%)	-	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.32	43.07	44.22 (44.20)	-	2.7
単収(t/ha)	6.29	6.44	6.53 (6.53)	-	1.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC「Grain Market Report」(11 January 2024)

表: 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量:万トン、シェア:%)

2023年12月			2023年1月～2023年12月			2022年1月～2022年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	401.1	81.0	ブラジル	1,255.9	46.7	米国	1,487.8	72.1
米国	64.7	13.1	米国	714.1	26.6	ウクライナ	526.4	25.5
ウクライナ	13.8	2.8	ウクライナ	550.4	20.5	ミャンマー	19.4	0.9
ミャンマー	5.3	1.1	ブルガリア	74.1	2.8	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	4.7	1.0	ミャンマー	34.3	1.3	ロシア	9.3	0.5
ロシア	2.8	0.6	ロシア	29.3	1.1	ラオス	5.2	0.2
その他	2.6	0.5	その他	29.5	1.1	その他	0.6	0.0
計	495.0	100	計	2,687.6	100	計	2,063.4	100

資料: 中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成。

＜ ウクライナ ＞ 2023/24 年度の生産量は、侵攻前の 2021/22 年度より 27.6%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より収穫面積が減少（前年度比 1.2%減）も、天候に恵まれ単収が上昇（前年度比 14.4%増）したことを受け、前年度より 13.0%増となった。ただ、侵攻前の史上最高の豊作だった 2021/22 年度比では 27.6%減の 30.5 百万トンとなる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2 月 8 日現在、収穫進捗率は 91%と、前年度同期（93%）よりやや遅れている。単収は 2 月 8 日時点で 7.79 トン/ヘクタールと、前年度より 16%増となる見通し。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、輸出増により国内消費向けに限られることを受けて前月予測から 0.5 百万トン下方修正されたものの、増産による供給増を受けて前年度より 2.0%増の 5.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、臨時回廊による輸出増を受けて前月予測から 2.0 百万トン上方修正されたものの、2023/24 年度の期首在庫の減少、黒海穀物イニシアティブの停止、主要輸出先である EU での増産による輸入需要の減少の影響を受け、前年度より 15.2%減、侵攻前の 2021/22 年度からも 14.8%減の 23.0 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、2023 年 10 月～2024 年 1 月の輸出量は 966.0 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、臨時回廊により輸出量が増加（2023 年 7～9 月平均と比較し、月平均で 178.2%増）したものの、黒海穀物イニシアティブが履行されていた前年同時期比では 5%減。輸出先国は、スペイン（297.4 万トン）、中国（163.8 万トン）、エジプト（134.1 万トン）、イタリア（96.9 万トン）、オランダ（91.8 万トン）の順。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、輸出増を受けて前月予測から 1.5 百万トン下方修正されたものの、増産による供給増から前年度より 90.0%増の 5.3 百万トンの見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前年度から 10.3 ポイント増の 19.0%となる見込み。黒海穀物イニシアティブの履行停止後に減少した輸出量は、臨時回廊の利用等で回復しつつあるが、増産に伴い在庫は前年度より増加するとみられる。

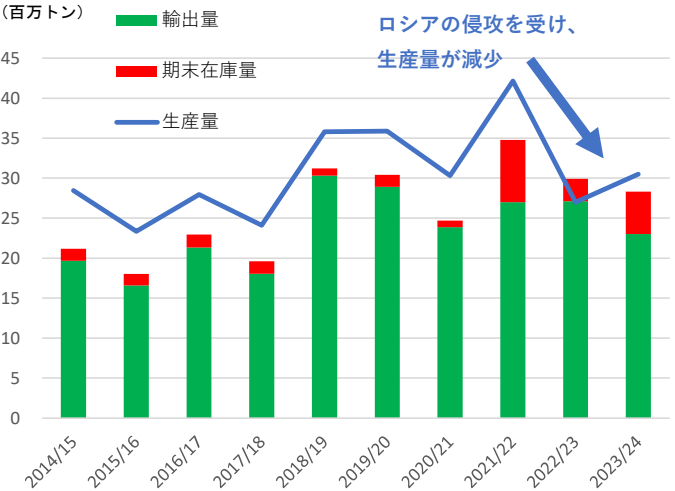
とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	42.1	27.0	30.5 (30.0)	－	13.0	
消 費 量	8.2	4.9	5.0 (6.3)	▲ 0.5	2.0	
うち飼料用	7.2	4.0	4.0 (4.5)	▲ 0.5	－	
輸 出 量	27.0	27.1	23.0 (19.5)	2.0	▲ 15.2	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	－	－	
期末在庫量	7.8	2.8	5.3 (5.5)	▲ 1.5	90.0	
期末在庫率	22.2%	8.7%	19.0% (21.5%)	▲ 6.7	10.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.49	4.05	4.00 (4.06)	－	▲ 1.2	
単収(t/ha)	7.68	6.67	7.63 (7.40)	－	14.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」(11 January 2024)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

(2023/24 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し)



資料：USDA 「PS&D」 (2024. 2. 8) をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・フィリピン等で下方修正されたものの、スリランカ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

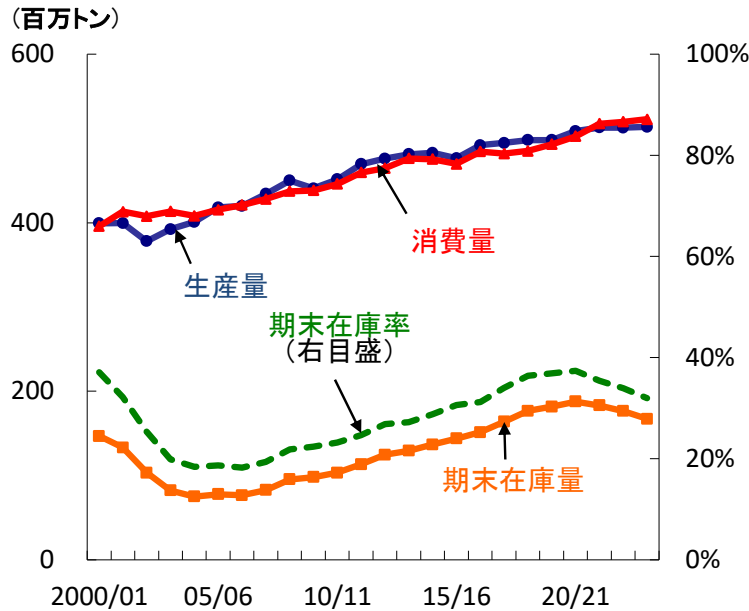
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インドネシア、サウジアラビア、フィリピン等で上方修正され、前月から上修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・米国等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2024. 2. 8）をもとに農林水産省にて作成

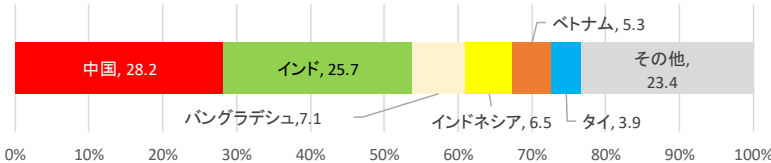
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

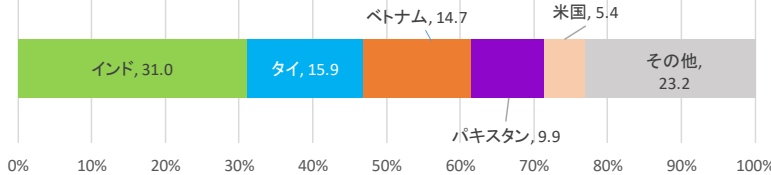
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	513.1	513.0	513.7	0.2	0.2
消 費 量	517.6	519.9	522.9	0.8	0.6
輸 出 量	56.9	54.3	51.6	0.1	▲ 4.9
輸 入 量	54.5	55.1	49.2	▲ 0.5	▲ 10.6
期末在庫量	183.3	176.4	167.2	▲ 0.1	▲ 5.2
期末在庫率	35.4%	33.9%	32.0%	▲ 0.1	▲ 1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（8 February, 2024）

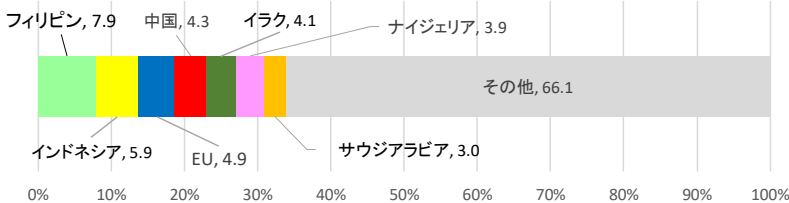
○ 2023/24年度 世界のコメの生産量(513.7百万トン)（単位：%）



○ 2023/24年度 世界のコメの輸出量(51.6百万トン)（単位：%）



○ 2023/24年度 世界のコメの輸入量(49.2百万トン)（単位：%）



（２）国別のコメの需給動向

＜ 米国 ＞ ２月初旬の豪雪で 2024 年の灌漑用水源となる降雪量が増加

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 36.4%増の 6.9 百万トンの見込み。特に 2 年連続の干ばつに見舞われ生産量が激減していた中・短粒種の生産量が 2.0 百万トンと、前年度比で 204.0%に大きく回復することが要因。長粒種の生産量は 4.9 百万トンと、前年度比で 19.8%増加。

カリフォルニア州水資源部によると、2024 年の灌漑用水源となるシエラネバダ山脈の降雪量は、1 月末時点で 21.6cm と、平年の 50%程度に留まっていたが、2 月当初の豪雨・豪雪により積雪が増え、2 月上旬には平年の 70%の水準まで回復した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給量増加の見込みから、前年度比 11.5%増の 5.1 百万トンと、史上最高の見込み。

2023/24 年度の輸入量は、2023 年 8～12 月にかけてタイ等アジア諸国から食用の香米の輸入が当初予想を上回ったことや、本年 1～7 月も輸入が継続される見込みから、前月予測よりわずかに上方修正され、前年度比 7.9%増の 1.4 百万トンと、史上最高となる見込み。

2023/24 年度の輸出量は、1 月下旬からの長粒種の輸出ペースが予想を上回り、本年 7 月までは同ペースでの輸出が継続する見込みから、前月予測より 0.1 百万トン上方修正された。国内生産量の増加と、それに伴う価格競争力の改善から、前年度比 35.3%増の 2.8 百万トンの見込み。2023/24 年度(2023 年 8 月 1 日～2024 年 2 月 1 日)の主な輸出先国はメキシコ (53.8 万トン)、日本 (20.7 万トン)、ハイチ (20.0 万トン) の順。

USDA 「Rice Outlook」(2024.2.12)によれば、2 月 6 日までの週のイラク向け長粒種 (2 等、碎米 4 %混入) の価格は 765 ドル/トンと、昨年 11 月以来の高水準を維持しているものの、インドの輸入規制やインドネシアの減産による輸入拡大等を受け、2008 年 11 月初旬 (772 ドル/トン) 以来の高値となっている (P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。他方、地中海向けカリフォルニア米 (1 等、碎米 4 %混入) である中粒種は生産量の増加見込みを受け 950 ドル/トンと、2023 年 9 月初旬の史上最高値から 700 ドル/トン下落し、昨年 12 月上旬以降、2021 年 5 月以来の安値となっている。

期末在庫量は、輸出量の上方修正を受けて、前月予測からわずかに下方修正されたものの、前年度より 40.6%増の 1.4 百万トンの見込み。

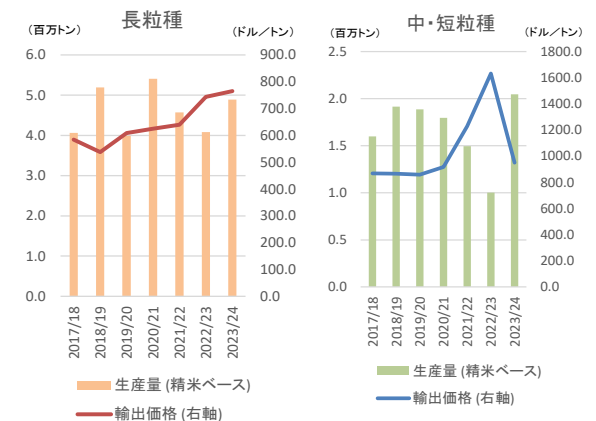
コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年 8 月～24 年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	6.1	5.1	6.9	-	36.4
消 費 量	4.7	4.6	5.1	-	11.5
輸 出 量	2.7	2.0	2.8	0.1	35.3
輸 入 量	1.2	1.3	1.4	0.0	7.9
期末在庫量	1.3	1.0	1.4	▲ 0.0	40.6
期末在庫率	17.1%	14.4%	17.1%	▲ 0.5	2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	0.88	1.16	-	31.8
単収(もみt/ha)	8.64	8.28	8.57	-	3.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February, 2024)

図：米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA 「Rice Outlook」(2024.2.12) より。価格は年度内の平均価格。なお、2023/24 年度は 2024 年 2 月の価格。

< インド > ラビ米の生育は良好も、降雨不足から灌漑用水不足が懸念

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく132.0百万トンと、前年度比で2.8%減も、過去5年平均比で5.6%増の見込み。2023年8月の極度の降雨不足を受け、インドのコメ生産量の85%を占めるカリフ米の単収減少予想が減産の要因。単収は4.21もみトン／ヘクタールと、前年度比で1.2%減も、過去5年平均比では2.3%増の見込み。

現地情報によると、本年の乾季の降雨量は、インド全土で例年より58%少ないとのこと。この降水量不足が2月に解消されない場合、灌漑用水が不足し、穀物生産に悪影響が出る可能性がある。コメの二期作エリアでは、移植～初期栄養段階にあり、移植は2月末までに完了する予定とのこと。

インド農業農民福祉省によると、ラビ米の作付済面積は、2月2日時点で3.93百万ヘクタール、作付け進捗率は74.8%と、前年同期(4.04百万ヘクタール、76.9%)とほぼ同水準。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、11月初旬に政府が、2024年1月以降の穀物配給計画を5年間延長したことから、前年度比3.0%増の118.0百万トンの見込み。政府の配給プログラムは8.13億人が対象となっており、コメ等が低所得世帯向けに無償又は低価格で配給される見込み。調達量は、52～55百万トンの見込み（インド全体の消費量の半分に相当）。

2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、輸出規制強化による直近の輸出量減少で、前月予測から0.5百万トン下方修正され、前年度比21.0%減の16.0百万トンの見込み。ただ依然として世界第1位の輸出国を維持しており、世界の輸出量の約31%を占める。2023年1月から11月までの主な輸出先国は、ベナン（148.4万トン）、サウジアラビア（111.3万トン）、セネガル（93.5万トン）の順。なお、サウジアラビア向けはバスマティ米の輸出が主流となっている。

なお、インドは、非バスマティ米を中心に、2022年9月9日以降、様々な輸出規制を発動・強化している。詳細は右表を参照のこと。

USDA「Rice Outlook」（2024.2.12）によれば、インド産米（碎米5%混入）の価格は、輸出規制強化後のデータが提示されていない。なお、規制前の2023年7月時点の輸出価格は485ドル/トンと、アジア主要輸出国の中で最低水準の価格となっていた（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

2023/24年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、消費量の増加から前年度比5.7%減の33.0百万トンの見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	129.5	135.8	132.0 (129.3)	-	▲ 2.8
消 費 量	110.5	114.5	118.0 (113.2)	-	3.0
輸 出 量	22.0	20.3	16.0 (13.6)	-	▲ 21.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	34.0	35.0	33.0 (36.3)	-	▲ 5.7
期末在庫率	25.7%	26.0%	24.6% (28.6%)	-	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	46.28	47.83	47.00 (47.70)	-	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	4.20	4.26	4.21 (2.85)	-	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February, 2024)
IGC「Grain Market Report」(11 January, 2024)（単収は精米t/ha）

表：インドのコメ輸出規制(2022年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)	—
	最低輸出価格導入 (1,200 ドル/トン→950ドル/トンに引き 下げ (2023.10.26～))	2023.8.27～
バーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～ 2024.3.31
バスマティ米・バーボイ ルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は、輸出を許可。
※有機米は本措置の対象外。
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

< 中国 > 2023/24 年度は播種面積が減少し、生産量が対前年比 0.9%減少

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、2023 年 7～9 月の豪雨等により東北部（特に吉林省、黒竜江省及び遼寧省）で播種面積が引き下げられたことから、前年度比 0.9%減の 144.6 百万トンの見込み。ただし、良好な土壌水分等を受け、単収は史上最高の見込み。なお東北部では、政府による大豆作付推進政策の反動を受けコメ作付面積が減少傾向にある。

中国国家统计局「2023 年糧食生産量データ」（2023.12.11）によれば、2023 年のコメの播種面積は 28.9 百万ヘクタールと、前年比 1.7%減少した。他方で、単収は、天候に恵まれたことも受けて 7.1 トン/ヘクタールと、前年比 0.8%増加した。生産量（もみベース）は 206.6 百万トンと、前年比 0.9%減少した。

なお、現地情報によると、収穫は 2023 年 11 月に終了した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこし等飼料用作物の価格低下を受けた飼料用米の需要減少から、前年度比 3.3%減の 149.9 百万トンの見込み。

2023/24 年度の実輸入量は、インドの輸出規制や国際コメ価格の高騰から、前月予測より 0.6 百万トン下方修正され、前年度比 52.1%減の 2.1 百万トンの見込み。中国は、もち米や香米に加え、特にとうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、代替としてインド等から碎米を輸入してきたが、2022 年 9 月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は規制前の年度（2021/22 年度、6.0 百万トン）と比較して 65.0%減少している。中国海関統計によれば、2023 年 12 月の輸入量は 23.2 万トン（前年同月比 44.5%減）、同年 1～12 月の輸入量は 263.6 万トン（前年同期比 58.2%減）となった。輸入国別では、1 位がベトナム（35.4%）、2 位はミャンマー（19.8%）、3 位がタイ（19.7%）の順。

一方、USDA によると、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っており、2023/24 年度の実輸出量は、前年度比 14.9%増の 2.0 百万トンとなっている。主要輸出先には、同政策の賛同国であるエジプトやロシア、パプアニューギニアが含まれている。

期末在庫量は、輸入量の方下方修正から前月より 0.6 百万トン下方修正され、前年度比 4.9%減の 101.4 百万トンの見込み。ただし、インドの期末在庫量（33.0 百万トン）と合計すると世界の期末在庫量の約 80%を占める。

コメー中国

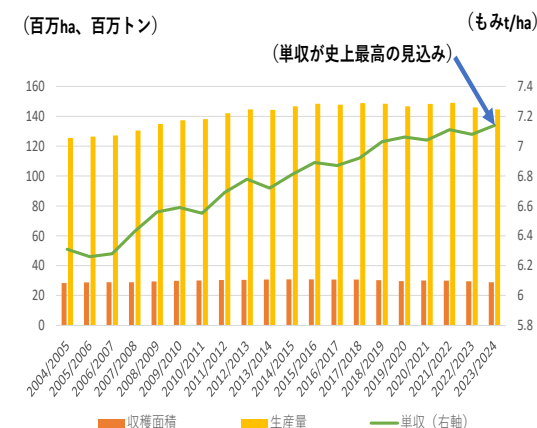
北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ（粳）米は東北部、江蘇省等で栽培、生産シェアは 3 割程度

（単位：百万精米トン）

年 度	2021/22	2022/23 （見込み）	2023/24（23年7月～24年6月）		
			予測値、〇はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	149.0	146.0	144.6 (144.6)	-	▲ 0.9
消 費 量	156.4	155.0	149.9 (148.0)	-	▲ 3.3
輸 出 量	2.1	1.7	2.0 (2.2)	-	14.9
輸 入 量	6.0	4.4	2.1 (3.3)	▲ 0.6	▲ 52.1
期末在庫量	113.0	106.6	101.4 (102.3)	▲ 0.6	▲ 4.9
期末在庫率	71.3%	68.0%	66.7% (68.1%)	▲ 0.4	▲ 1.3
（参考）					
収穫面積(百万ha)	29.92	29.45	28.95 (29.45)	-	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	7.11	7.08	7.14 (4.96)	-	0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February, 2024)
IGC「Grain Market Report」(11 January, 2024)（単収は精米t/ha）

図： 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
（2004/05～2023/24 年度）



資料：USDA「PS&D」(2024.2.8)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > 乾季米は灌漑用水不足や高温から減産見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2023年5月から9月中旬にかけての平年を下回る降雨量から、前年度比4.4%減の20.0百万トンの見込み。

現地情報によると、11月中旬からの乾期の中、1月の降雨量は例年と比べても全国的に少なく、米の主要産地である北部で10ミリ、東北部と中部では10ミリ以下と、平年比をわずかに下回った。また、1月の気温は、全国平均で平年より1.4度高かった。3月以降次第に降雨量が増える見込みであるも、今年はエルニーニョ現象による天候不順の影響で、雨季の降雨総量は例年に比べて少なくなることが予想されている。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.2)によると、乾季米は出穂期から登頂期にある。国際価格の上昇期待から、政府計画面積を上回る作付けがあったものの、作付面積は1.4百万ヘクタールと、灌漑用水や降雨不足から前年よりわずかに減少。水不足の影響から生育状況は芳しくなく、高温の影響で幼穂形成不良や小穂が見られ、生産量と単収とも昨年度より減少する見込み。

USDAによると、2022/23年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、タイ政府による収穫面積の増加見込み(11.07百万ヘクタールと史上最高)等を受け、2021/22年度比5.0%増の20.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産見込みから、前年度比6.2%減の8.2百万トンの見込み。

2022/23年度の輸出量は、貿易統計に基づき、前月予測からわずかに上方修正され、2021/22年度比13.0%増の8.7百万トン。

タイ米輸出業者協会によれば、2023年1～12月の輸出量は、前年同期比13.7%増の876.3万トンとなった。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシアは、前年同期の9.2万トンから大幅増の141.1万トンと、最大の輸出先国となった。また、南アフリカが88.5万トン(前年同期77.5万トン)、検疫問題で7年間輸入を停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは85.4万トン(同160.0万トン)、米国は70.6万トン(同65.2万トン)をそれぞれ輸入した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.2.8)によれば、2月6日までの週のタイ産米(長粒、2等精米)の輸出価格は、バーツ安や本年2月末の乾季米の流入期待から値を下げ、前月から12ドル/トン下落し、630ドル/トンとなった(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。2023年12月中旬以降、不安定な情勢が続く紅海を迂回することによる、欧州や中東向けの輸送コストの増加や輸送日数の増加が懸念されている。

期末在庫量は、輸入量の上方修正から前月よりわずかに上方修正されたものの、減産予測から前年度比15.6%減の3.3百万トンの見込み。

コメント

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年1月～24年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	19.9	20.9	20.0 (19.7)	-	▲ 4.4
消 費 量	12.5	12.5	12.5 (13.0)	-	-
輸 出 量	7.7	8.7	8.2 (8.5)	-	▲ 6.2
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	0.1	100.0
期末在庫量	4.1	3.9	3.3 (2.6)	0.0	▲ 15.6
期末在庫率	20.5%	18.1%	15.7% (12.3%)	0.1	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.70	11.07	10.65 (11.00)	-	▲ 3.8
単収(もみt/ha)	2.81	2.86	2.85 (1.89)	-	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February, 2024)
IGC「Grain Market Report」(11 January, 2024) (単収は精米t/ha)

表：タイの国別輸出量

国名	(単位：万トン)		
	2022年 1～12月	2023年 1～12月	増減量
1 インドネシア	9.2	141.1	132.0
2 南アフリカ	77.5	88.5	11.0
3 イラク	160.0	85.4	-74.6
4 米国	65.2	70.6	5.5
5 中国	75.2	47.2	-28.0
6 マレーシア	18.6	42.0	23.4
7 日本	13.2	40.2	27.0
8 フィリピン	31.3	33.7	2.4
9 セネガル	23.2	28.2	5.0
10 カメルーン	20.4	20.0	-0.4
計	771.0	876.3	105.3 (前年比13.7%増)

資料：タイ関税局(2024.2)

＜ ベトナム ＞ 南部メコンデルタ地域で冬春作（乾季米）の収穫を開始

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が過去最高だった前年度の水準からわずかに減少も、収穫面積の増大により、前年度比 0.2%増の 27.0 百万トンの見込み。なお、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等により、生産量が史上最高となった 2014/15 年度（28.2 百万トン）を境に緩やかな低下傾向にある。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.2）によると、①北部は、冬春作（乾季米）の播種が開始された。播種面積は 10.47 万ヘクタールで、前年度比 2.2%減となる見込み。②南部では、冬春作（乾季米）が生育期にある。現時点の播種面積は 1.77 百万ヘクタール。他方、主に南部のメコンデルタ地域では、乾季米の収穫が始まった。収穫面積は 9.2 万ヘクタールで、生育状況は良好。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、アジア諸国等からの精米輸入需要が落ち着く見込みから、前年度比 7.7%減の 7.6 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸出量は、2023 年 7～12 月の中国への輸出が、同年前半に比べて急減したことから、前月予測より 0.2 百万トン下方修正されたものの、フィリピンによる史上最高の輸入量の継続見込みや、インドネシアによる 2023 年中の追加需要見込みを受け、8.2 百万トンと前年度比 15.5%増で史上最高の見込み。特にインドネシアは、エルニーニョ等によるコメの減産見込みや、燃料価格高騰による投入財費用の高騰から、国内コメ価格が上昇。価格抑制のための在庫放出に加え、低所得世帯へのコメ配給等を受け、政府が設定する最低水準以下に在庫が低下。これを補うため、2023 年 1～12 月までに合計 350 万トンを輸入する見込み。2023 年 1～10 月までの輸入量(209.8 万トン)のうち、ベトナム産の輸入は 94.6 万トン（45.1%）。

ベトナム関税総局によれば、2023 年 1～12 月の輸出量は 813.2 万トンと、前年同期（710.5 万トン）に比べ 14.4%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（313.5 万トン）、インドネシア（116.6 万トン）、中国（91.7 万トン）、ガーナ（58.7 万トン）の順。特に、インドネシア向けが前年度比 978.0%増加。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2024.2.8)によれば、ベトナム産米（長粒種、5 %碎米混入）の 2 月 6 日までの週の価格は、新穀の流入から、前月の価格より 23 ドル／トン下落し、645 ドル／トンとなった。

期末在庫量は、2022/23 年度の輸出量の減少から、前月予測より 0.2 百万トン上方修正されたものの、前年度比 22.6%減の 1.4 百万トンの見込み。

コメーベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年 1 月～24年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.7	26.9	27.0 (28.0)	-	0.2
消 費 量	21.4	21.4	21.2 (21.9)	-	▲ 0.9
輸 出 量	7.1	8.2	7.6 (8.0)	-	▲ 7.7
輸 入 量	1.7	1.8	1.4 (1.5)	-	▲ 22.2
期末在庫量	2.7	1.8	1.4 (2.1)	0.2	▲ 22.6
期末在庫率	9.3%	6.0%	4.8% (7.2%)	0.6	▲ 1.2

(参考)
収穫面積(百万ha) 7.10 7.10 7.15 (7.11) - 0.7
単収(もみt/ha) 6.01 6.07 6.05 (3.90) - ▲ 0.3
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」 (8 February, 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (11 January, 2024) (単収は精米t/ha)

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料：USDA 「Grain：World Markets and Trade」(2024.2.8)より。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 

・ボリビア等で上方修正されたものの、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

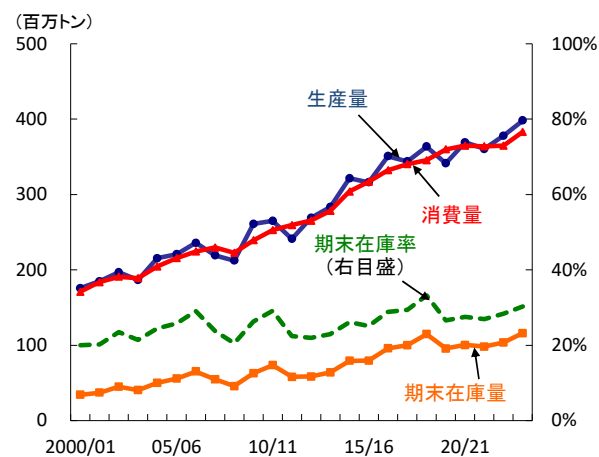
消費量 前年度比  前月比 

・インド等で上方修正されたものの、ベトナム、EU 等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・ブラジル等で上方修正されたものの、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2024.2.8）をもとに農林水産省で作成

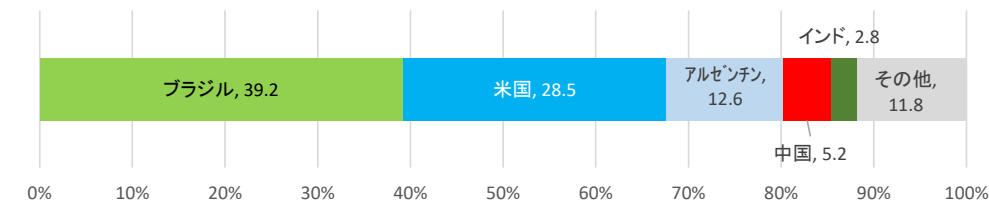
◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

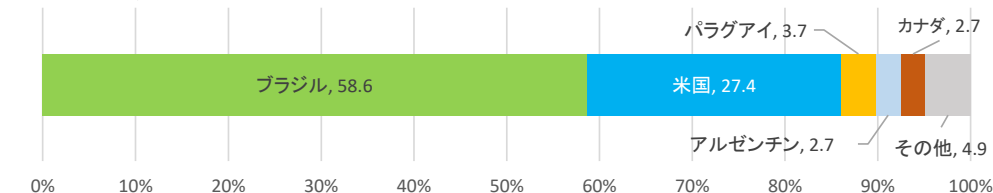
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	360.4	378.1	398.2	▲ 0.8	5.3
消費量	363.9	364.9	383.0	▲ 0.6	5.0
うち搾油用	314.5	314.2	329.3	▲ 0.1	4.8
輸出量	154.2	172.0	170.6	▲ 0.4	▲ 0.8
輸入量	155.5	164.4	167.9	▲ 0.5	2.1
期末在庫量	98.0	103.6	116.0	1.4	12.0
期末在庫率	26.9%	28.4%	30.3%	0.4	1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（8 February 2024）

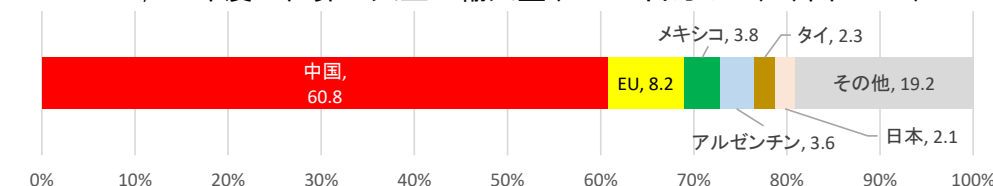
○ 2023/24 年度の世界の大豆の生産量 (398.2 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸出量 (170.6 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸入量 (167.9 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積の減少により、生産量は前年度より 2.5%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受け前年度より 2.5%減の 113.3 百万トンの見通し。大豆からとうもろこしへの作付転換により収穫面積が減少したとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、バイオ燃料・飼料用需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.8%増の 66.0 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、ブラジルとの激しい輸出競争を受けた低調な輸出ペースにより前月予測から 0.9 百万トン下方修正され、前年度より 13.7%減の 46.8 百万トンの見込み。史上最高の豊作見通しとなったブラジル産と比べ相対的な価格競争力が落ちていることが要因とみられる。また、米国国内のバイオ燃料用消費量が増加していることも背景にあるとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、2023/24 年度の輸出量が下方修正されたことを受け、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度より 19.2%増の 8.6 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 7.6%で、過去 3 年平均（6.0%）を上回るものの、過去 5 年平均（11.0%）を下回っており、引き続き低水準に留まる見通し。

USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」（2024.2.8）によれば、本年 2 月の米国大豆価格は、2 月 7 日現在、ブラジルにおける収穫進展による世界的な豊作基調及び旧正月前のアジアの低調な需要を受けて、前月から 25 ドル/トン下落し 467 ドル/トン。

USDA によれば、2023 年 9 月～2024 年 1 月の輸出量は 2,884 万トンと、ブラジルとの激しい輸出競争を受けて前年度同時期の 3,687 万トンより 22%減。内訳は中国（1,781.9 万トン）、メキシコ（241.9 万トン）、イタリア（124.2 万トン）の順となっている。

USDA によれば、米国政府は、温室効果ガス排出削減のため、様々な原料のバイオマス利用を奨励している。2022/23 年度における主要な植物油のバイオ燃料向け生産量は前年度比 30.8%増の 8.7 百万トン。そのうち、大豆油のバイオ燃料向け生産量は前年度比 20.2%増の 5.7 百万トンで史上最高。2022/23 年度大豆油は増産となったものの、国内のバイオマス利用に向けられ輸出量が歴史的な低水準に留まったため、今後も動向を注視する必要。

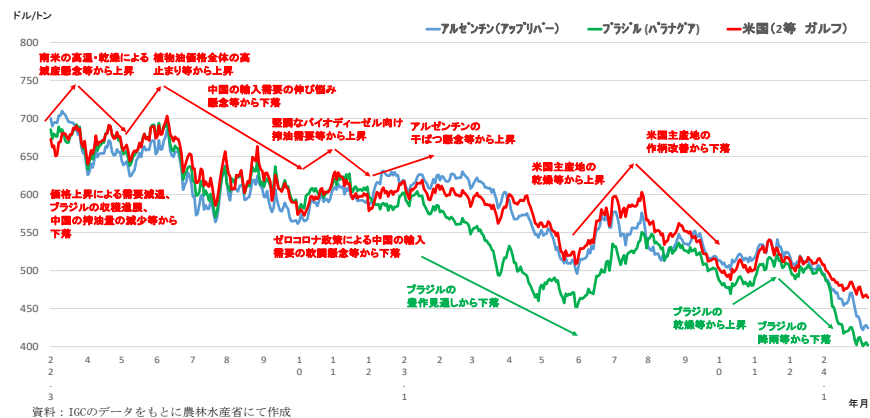
大豆－米国

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年 9 月～24年 8 月）		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	121.5	116.2	113.3	-	▲ 2.5
消 費 量	62.9	63.0	66.0	-	4.8
うち搾油用	60.0	60.2	62.6	-	4.0
輸 出 量	58.6	54.2	46.8	▲ 0.9	▲ 13.7
輸 入 量	0.4	0.7	0.8	-	22.4
期末在庫量	7.5	7.2	8.6	1.0	19.2
期末在庫率	6.2%	6.1%	7.6%	0.9	1.5
（参考）					
収穫面積(百万ha)	34.92	34.87	33.33	-	▲ 4.4
単収(t/ha)	3.48	3.33	3.40	-	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（8 February 2024）

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量 (CONAB) は前年度より 3.4%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、主要生産州の中西部マット・グロッソ州南部やパラナ州での悪天候により単収が引き下げられたことを受け、前月予測から 1.0 百万トン下方修正されて 156.0 百万トン。作付面積は史上最高となるものの、単収が減少することから、生産量は史上最高の前年度より 3.7%減も、引き続き高水準を維持している。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.2.8) によれば、2023/24 年度の実産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、高温乾燥による単収減から前年度より 3.4%減の 149.4 百万トンの見通し。主要生産州のマット・グロッソ州とパラナ州等における降雨不足と高温を受けて、前月予測から下方修正された。作付け進捗率はブラジルで 2 月上旬時点で 99.4%とほぼ完了し、収穫進捗率は 14%と、前年度同時期の 9%を上回っているものの、高温乾燥により未熟粒が多くなっているとみられている。

USDA によれば、2 月上旬、南部において季節外れの高温乾燥が広がった一方、中西部のマット・グロッソ州において高温乾燥を和らげる降雨があった。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料向けの実大豆需要が増加することから、前年度より 1.1%増の 57.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、10 月から 1 月の好調な輸出ペースを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、生産量が 2 年連続で高水準を維持し、価格競争力も高まる見込みから、前年度より 4.7%増の 100.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1 月の輸出量は 2.9 百万トンで、前年同月 (0.8 百万トン) に比べ 239.3%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国 (2.0 百万トン)、タイ (0.2 百万トン)、ベトナム (0.2 百万トン) の順。大豆収穫後の 3 月に輸出最盛期を迎える。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロッソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

大豆ーブラジル

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	130.5	162.0	156.0 (153.5)	▲ 1.0	▲ 3.7	
消 費 量	54.0	56.9	57.5 (56.5)	-	1.1	
うち搾油用	50.7	53.1	53.8 (53.5)	-	1.2	
輸 出 量	79.1	95.5	100.0 (96.7)	0.5	4.7	
輸 入 量	0.5	0.2	0.5 (0.5)	-	200.0	
期末在庫量	27.6	37.4	36.3 (2.6)	0.5	▲ 2.8	
期末在庫率	20.7%	24.5%	23.0% (1.7%)	0.2	▲ 1.5	

(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.60	44.60	45.90 (41.49)	0.30	2.9	
単収(t/ha)	3.14	3.63	3.40 (3.70)	▲ 0.04	▲ 6.3	
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(8 February 2024) IGC「Grain Market Report」(11 January 2024)						

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)
2023/24年度の実大豆の作付けは、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年												2024年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												収穫 23.6(百万t)								
冬とうもろこし	作付 3.9(百万ha)												作付 17.0(百万ha)								
大豆	マット・グロッソ州、パラナ州等												収穫 149.4(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート (2024.2.8)

< アルゼンチン > 2023/24 年度の生産量は、前年度より倍増

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥の影響を強く受け大幅な減産となった前年度から回復する見通しから、前年度の 2 倍の 50.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府によれば、2 月 14 日現在、作付けは完了。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.2.15）によれば、作付面積は 17.3 百万ヘクタールと、2022/23 年度（16.2 百万ヘクタール）より 6.8%増加している。81%の大豆が「良～やや良」の作柄となっている。1 月下旬から 2 月当初まで高温乾燥が続いたものの、2 月上旬、主産地の大部分で降雨があり、土壌水分量は増加している。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が回復することから、前年度比 16.9%増の 42.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 32.7%減の 6.1 百万トンの見込み。

2023/24 年度の実輸出量は、前月予測から変更はなく、干ばつにより減産し価格競争力が弱まった前年度から生産量が回復する見込みから、前年度より 9.8%増の 4.6 百万トンの見込み。

なお、2023 年 1～12 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産を受けて 185.9 万トンで前年度（550.6 万トン）より 66%減。輸出先は、中国（160.6 万トン）、米国（7.5 万トン）、チリ（2.0 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2%引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

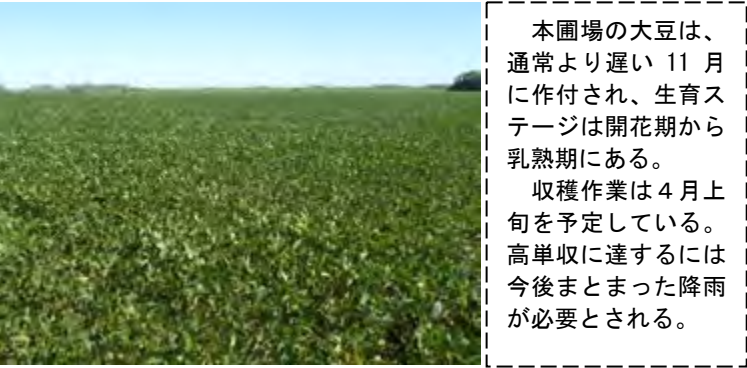
2023 年 12 月 10 日、新大統領に右派のミレイ氏が就任した。同 12 日、経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。また、大豆の輸出税は引き続き最大 33%に設定すると発表した。なお、「OIL WORLD Weekly」（2024.2.2）によれば、政府は、大豆油及び大豆粕の輸出税を 31%から 33%に引き上げることを検討していたものの、農業団体等の強い抵抗を受けて断念し、当面の間 31%のまま維持される見通し。ペソの更なる切下げも見送られている。

大豆ーアルゼンチン

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	(単位：百万トン)			
			2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	43.9	25.0	50.0 (48.5)	-	100.0	
消 費 量	46.0	36.6	42.8 (45.8)	-	16.9	
うち搾油用	38.8	30.3	35.5 (39.3)	-	17.1	
輸 出 量	2.9	4.2	4.6 (5.6)	-	9.8	
輸 入 量	3.8	9.1	6.1 (5.7)	-	▲ 32.7	
期末在庫量	23.9	17.2	26.0 (8.7)	-	50.8	
期末在庫率	48.9%	42.2%	54.8% (16.9%)	-	12.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	15.90	14.40	16.50 (15.87)	-	14.6	
単収(t/ha)	2.76	1.74	3.03 (3.06)	-	74.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
IGC「Grain Market Report」(11 January 2024)

写真：北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2024 年 1 月 29 日撮影)



本圃場の大豆は、通常より遅い 11 月に作付され、生育ステージは開花期から乳熟期にある。収穫作業は 4 月上旬を予定している。高単収に達するには今後まとまった降雨が必要とされる。

＜ 中国 ＞ 2023/24 年度の生産量・消費量・輸入量は史上最高

【生産・生育状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、中国国家统计局による収穫面積及び単収の増加見込みを受けて前年度より 2.8%増の 20.8 百万トンで史上最高の見込み。

中国国家统计局「2023 年糧食生産量データ」（2023.12.11）によれば、2023 年の生産量は前年より 2.8%増の 2,084 万トン。播種面積が前年より 2.2%増加し、単収も前年より 0.5%増加したことが要因。

2 月 3 日に発表された中国共産党・国务院（内閣に相当）の中央一号文件には、引き続き大豆の作付け確保や単収の向上等の取組等について記載された。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な食料需要に加え、国内の畜産物需要から大豆粕需要が増加することから、前年度より 3.4%増の 120.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、ブラジルからの輸入増により前年度より 1.1%増の 102.0 百万トンと史上最高の見込み。

農業農村部によれば、2023 年 1 ～12 月の輸入量は、前年より 0.4%減の 9,577 万トンと前年並み。内訳は、ブラジル（6,750.0 万トン）、米国（2,309.2 万トン）、アルゼンチン（204.7 万トン）の順となっている。ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占める一方、前年 12 月はアルゼンチン、カナダ、南アフリカからの輸入量が前月から大幅に増加しており（それぞれ 259%増、413%増、前月なし）、輸入国の多様化に取り組んでいるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 12 月号」によれば、12 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、増産した新穀の流入を受けて前月（4,880 元/トン）から下落し、4,840 元/トンとなった。12 月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、前月並みの 5,700 元/トンとなった。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 6.6%増の 36.0 百万トンと史上最高の見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前月予測からの変更はなく、前年度より 0.9 ポイント増の 29.9%となる見込み。

大豆－中国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.4	20.3	20.8 (20.8)	-	2.8
消 費 量	108.4	116.5	120.5 (120.5)	-	3.4
うち搾油用	87.9	95.0	98.0 (100.0)	-	3.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	11.1
輸 入 量	90.5	100.9	102.0 (102.0)	-	1.1
期末在庫量	29.3	33.8	36.0 (41.0)	-	6.6
期末在庫率	27.0%	29.0%	29.9% (34.0%)	-	0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.42	10.24	10.47 (8.40)	-	2.2
単収(t/ha)	1.95	1.98	1.99 (1.95)	-	0.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (8 February 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (11 January 2024)

表：中国の大豆輸入量と輸入先国

2023年12月			2023年 1 月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	498.0	50.7	ブラジル	6,750.0	70.5
米国	384.9	39.2	米国	2,309.2	24.1
アルゼンチン	39.0	4.0	アルゼンチン	204.7	2.1
カナダ	37.1	3.8	カナダ	139.4	1.5
南アフリカ	10.8	1.1	ロシア	123.8	1.3
ロシア	10.3	1.0	エチオピア	13.1	0.1
その他	2.2	0.2	その他	36.4	0.4
計	982.3	100	計	9,576.6	100

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は 7.0 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2024.2.16）によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.7%増、過去 5 年平均比も 6.8%増の 7.0 百万トンの見込み。単収が 3.09 トン/ヘクタールと、前年度並みの史上最高となり、収穫面積が 2.26 百万ヘクタールと前年度より 6.6%増と大幅に増加することによる。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2023」（2023.12.4）によれば、収穫が終了した 2023/24 年産について、カナダ東部では、温暖な気候と良好な水分状況により作柄は良好であった。

AAFC によれば、この春に作付けされる 2024/25 年度の実生産量は、収穫面積が前年より増加するものの、単収が前年より減少し、前年度並みの 7.0 百万トンの見通し。背景には、堅調な大豆粕需要と輸出がある。大豆価格は前年より低下するものの、とうもろこし価格より高いため、カナダ東部の農家は大豆の作付けを優先するとみられる。土壌水分は現時点で十分。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 12.2%増の 2.9 百万トンの見込み。バイオ燃料需要増による搾油の収益改善が見込まれていることによる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による輸出余力の増大を受けて、前年度より 7.3%増の 4.6 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2023/24 年度（2023 年 8 月～2024 年 7 月）の 2023 年 8～12 月の輸出量は 267.4 万トンで、前年度（257.5 万トン）を上回っている。国別では、中国（115.6 万トン）が 40%以上のシェアを占め、次いでイラン（51.6 万トン）、アルジェリア（35.6 万トン）、イタリア（15.0 万トン）の順となっている。

なお、カナダ産大豆は、主産地がカナダ東部のため、主要な輸出ルートは、アジア向けは通常五大湖を通してパナマ運河経由で輸出されるルートとなっており、春先まで続くとみられるパナマ運河の水位低下の影響を注視する必要がある。

AAFC によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、増産により前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度から 26.3%増の 0.5 百万トンの見込み。

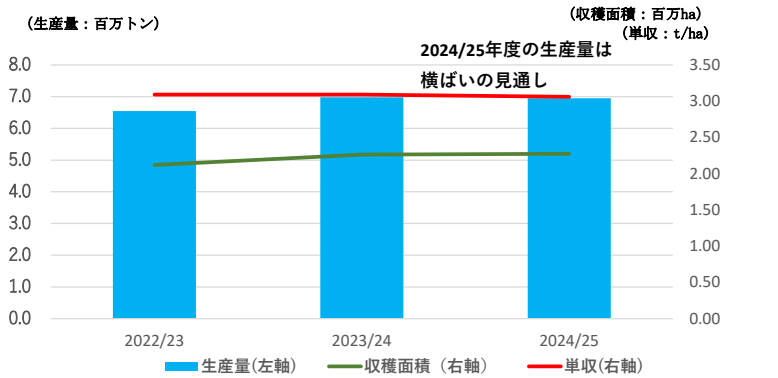
大豆－カナダ

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月～24年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.2	6.5	7.0 (7.0)	-	6.7
消 費 量	2.3	2.6	2.9 (2.5)	-	12.2
うち搾油用	1.8	1.8	1.9 (1.8)	-	6.4
輸 出 量	4.3	4.2	4.6 (4.9)	-	7.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.5)	-	-
期末在庫量	0.4	0.6	0.7 (0.4)	-	4.8
期末在庫率	6.5%	9.5%	9.1% (5.7%)	-	▲ 0.4

(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.08	2.12	2.26 (2.26)	-	6.6
単収(t/ha)	2.99	3.09	3.09 (3.09)	-	-

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」(8 February 2024)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(16 February 2024)

図：カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.2.16)をもとに農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について（2023/24年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	23年6月～24年5月	23年9月～24年8月	23年8月～24年7月	23年9月～24年8月
カナダ	23年8月～24年7月			23年8月～24年7月
豪州	23年10月～24年9月		24年3月～25年2月	
EU	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
中国	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月
ロシア	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		23年9月～24年8月
ウクライナ	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
ブラジル		24年3月～25年2月	24年4月～25年3月	23年10月～24年9月
アルゼンチン	23年12月～24年11月	24年3月～25年2月		23年10月～24年9月
タイ			24年1月～12月	
インド	23年4月～24年3月		23年10月～24年9月	
ベトナム			24年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2023/24年度は、米国の小麦では2023年6月～2024年5月、ブラジルのとうもろこしでは2024年3月～2025年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

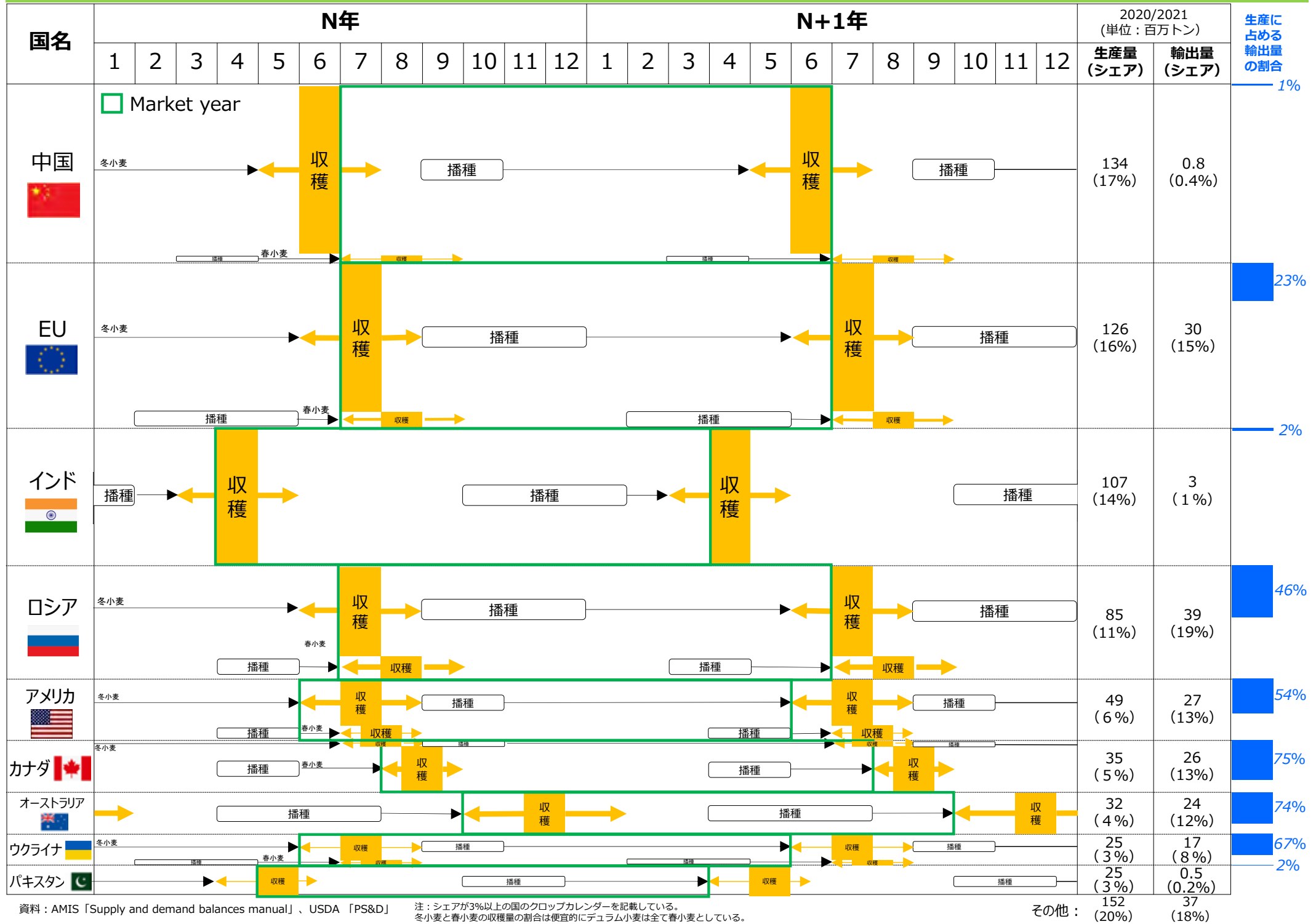
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

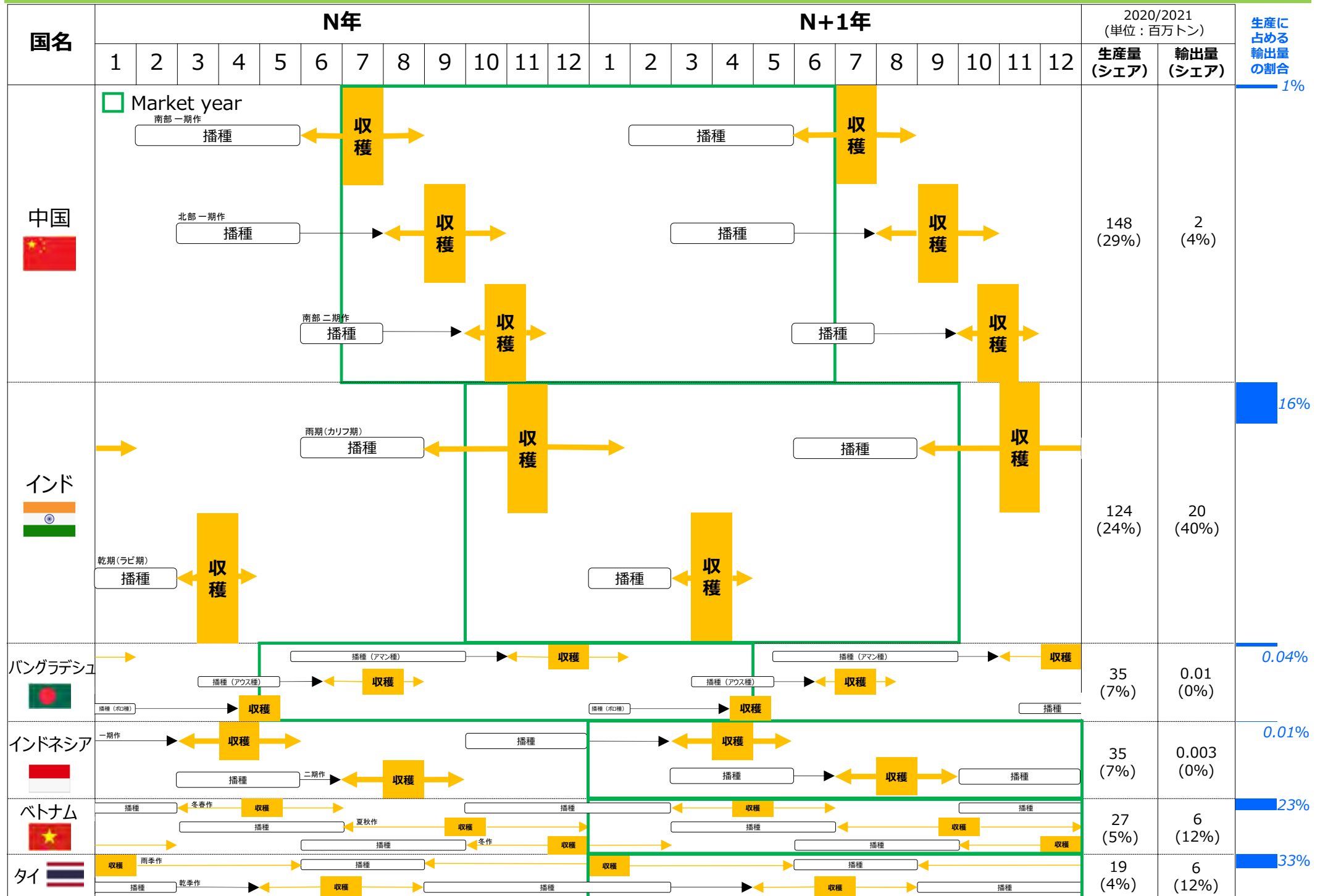
主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

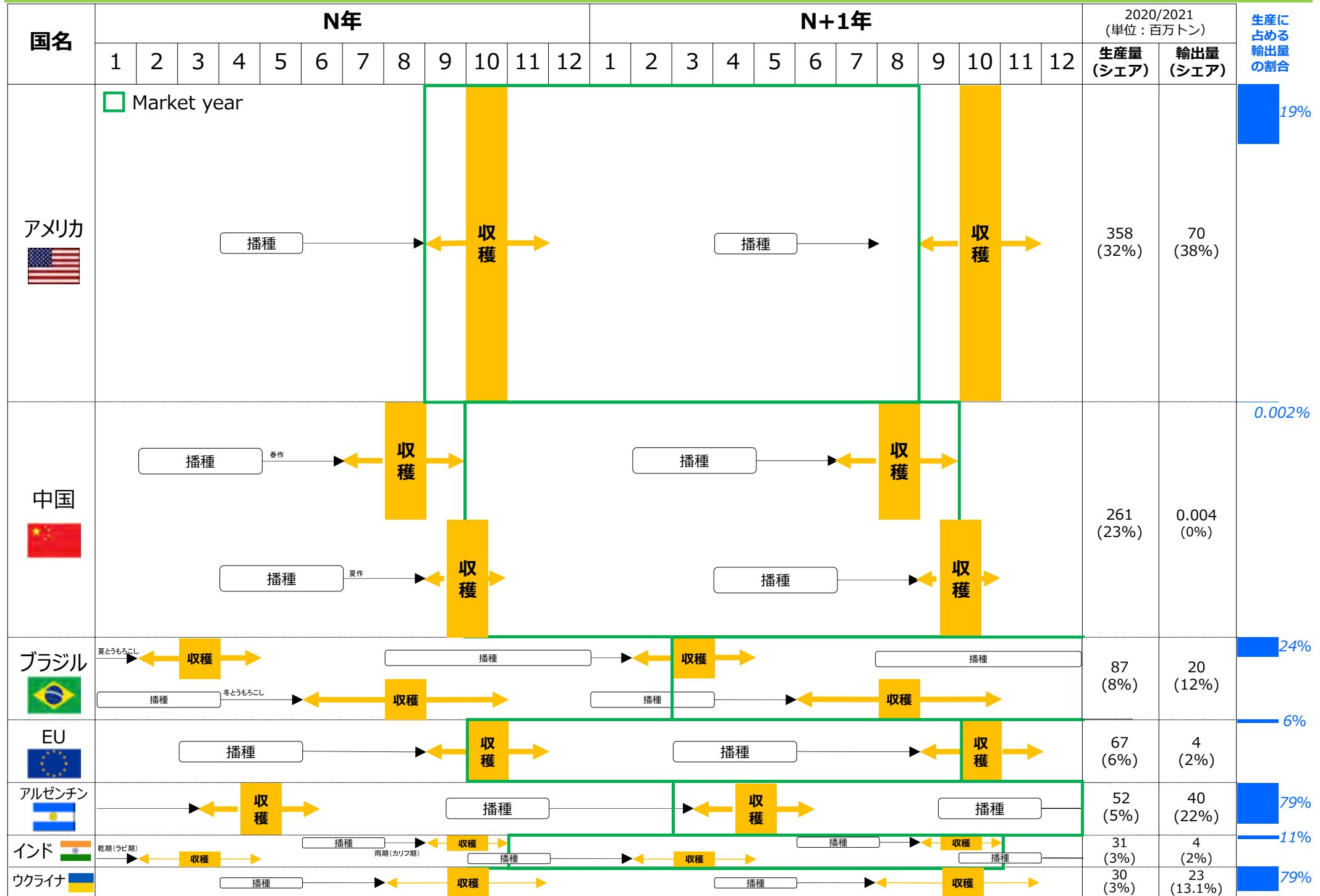
その他：

121
(24%)

16
(32%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



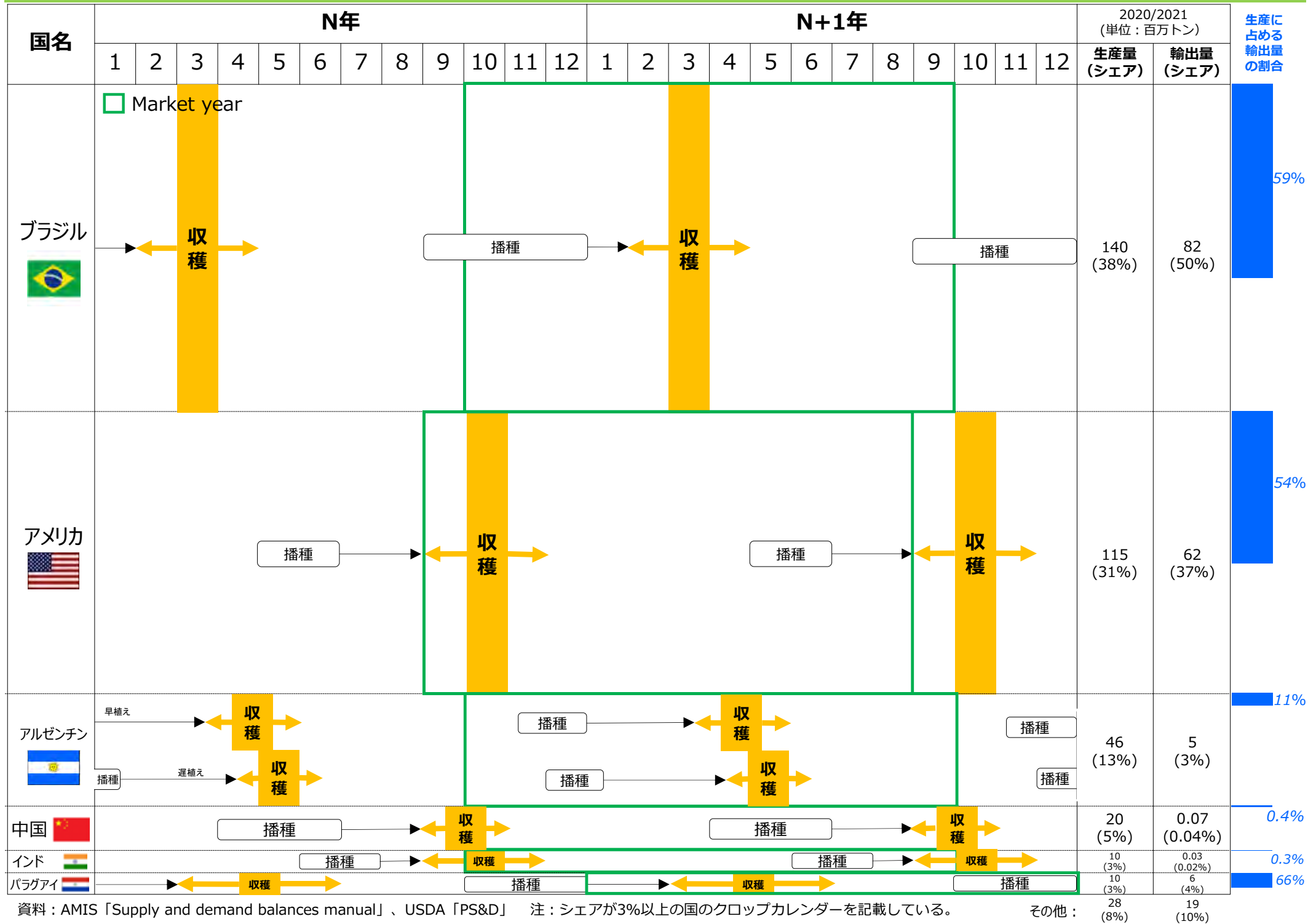
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他：242 (19) 21 (11%)

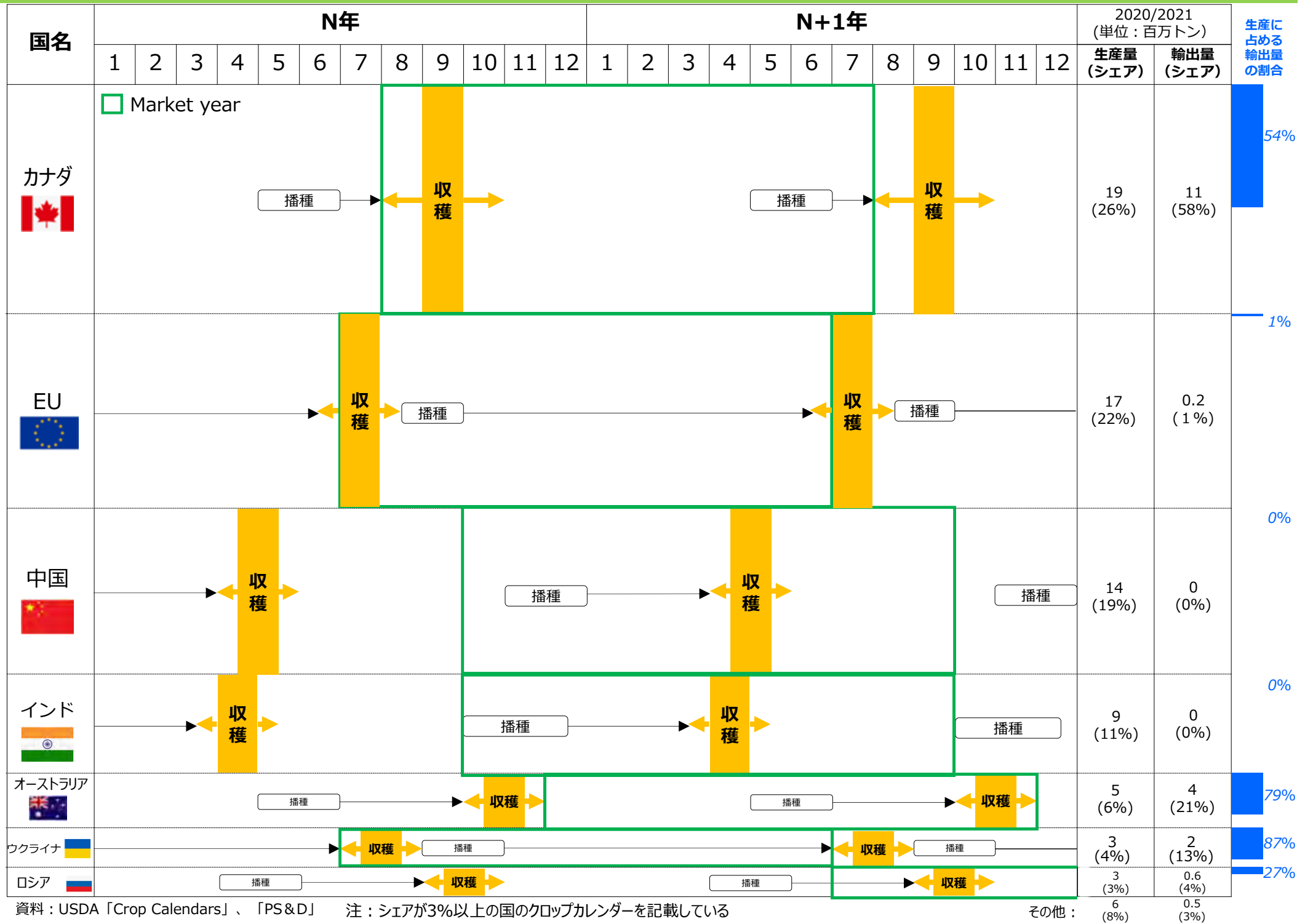
主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2024 年 2 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2023/24 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html